

71
329

寺石 正路 著

食人風俗考

全

東京堂 發 兌

202529-000-4

71-329

食人風俗考

寺石 正路 / 著

M31

EDE-0056

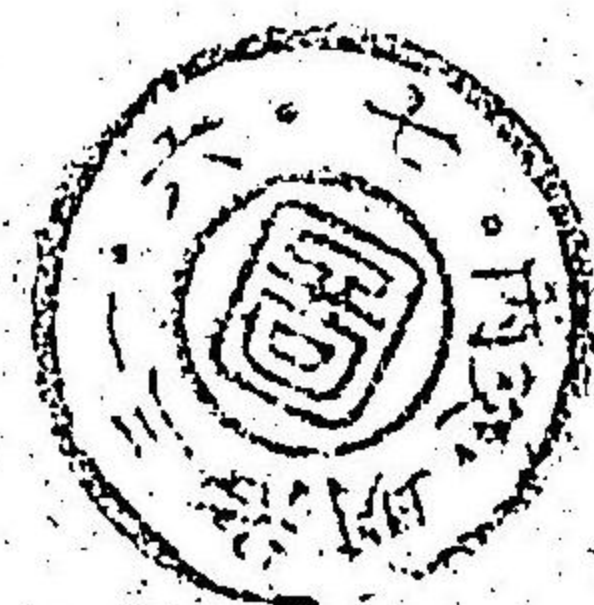




寺石正路著

食風俗考

東京堂發兌



全

自序

近來本邦ニ在リテ人類學社會學哲學等ノ研究日ヲ遂
フテ盛大ニ起キシト雖モ元來其學問ノ區域頗フル廣
大ニシテ且ツ其材料ノ蒐集モ亦容易ナラズ從フテ其
學問ヲ研究スル者ナシテ唯外人ノ成說ヲ窺フテ其考
索ヲ上下セシムルニ過ギザラシメ曾テ一人ノ能ク進
ミテ獨カ以テ材料ヲ網羅シ一箇ノ新理ヲ發見セント
試ミシムルモノ少ナシ遺憾ノ至リトイフベキナリ
抑學問ノ道ハ最初ヨリ完全無欠ヲ望ム可カラズ必ズ

ヤ其初ハ單純ノ觀察ヨリ入り後複雑ノ觀察ニ移リ部
 分ノ研究ヨリ始メテ全部ノ研究ニ進ムヲ良法トナス
 サレバ今一科ノ學問ヲ講究スルニ當リテモ適宜ノ時
 機ニ至リテ材料ヲ整頓シ一部ノ道理ヲ發見センコト
 ナ試ムハ亦斯學上全体ノ進歩ヲ計ル一段階タルヤ疑
 フ可カラズ蓋シ材料ノ蒐集絶對的十分ナルヲ待タシ
 トセバ恐クハ着手ノ時期ハ永久來ル時ナカルベシ
 余ヤ魯鈍ニシテ百事人後ニ落テ今又此高妙ナル學問
 ニシテ從來學者ノ未ダ手ヲ下ス少ナキ新問題ニ向フ

テ部分研究ヲ試ミント欲ス其狂愚素ヨリ一笑ニ直セ
 ンモ獨力蒐集ノ材料ニヨリ獨案考定ノ理論ニ本ヅキ
 意匠慘澹トシテ經營漸ク之ヲ成ス其間苟クモ他人ノ
 成説ヲ襲踏シテ恬トシテ其糟粕ヲ嘗ムル如キハ嘗テ
 之ヲナサズ唯斯學研究熱心ノ爲メ聊カ微衷ヲ盡サン
 ト期スルノミ其苦心未ダ之ヲ以テ尋常一樣ノ故紙堆
 中ニ没スルニ忍ビザルモノアリ是ニ於テカ遂ニ其稿
 案ヲ印刷シテ世ニ公ニセント欲ス幸ニ世ノ學者君子
 ノ寛大ナル是正ヲ賜ハリ其誤謬ヲ指摘シテ以テ完璧

ノ著トナスヲ得ハ余ノ光榮何ゾ之ニ如カンヤ西哲ニ
ユードン「嘗テ曰ク吾人ハ唯濱海ニ遊ブ小兒ニ過キズ
真理ノ大洋ハ未ダ探險ヲ歷ズ茫々然トシテ眼前ニ在
リト嗚乎吾輩ノ爲ス所口真ニ新學中ノ粒塵ナリ前途
猶遠シ豈ニ努力セザル可ケンヤ

明治三十一年五月

著 者 寺石正路識

土陽叢書 第八册 食人風俗考

目 録

第一	總論	一
第二	食人ノ種類	四
第三	食欲上人ヲ食フノ場合	七
第四	小兒婦人ヲ食フ例	一〇
第五	病者老人ヲ食フノ例	一七
第六	死人ヲ食フノ例	二一
第七	壯者又敵人ヲ食フノ例	二三
第八	飢饉等非常ノ際人ヲ食フ場合	二九
第九	情感上人ヲ食フノ場合	三五
第十	道徳上人ヲ食フノ場合	四三
第十一	自己ノ或ル体力ヲ強メン爲メ人ヲ食フ例	四五

人体犠牲考

第十二	疾病治療ノ爲メ人ヲ食フ例	五〇
第十三	厭勝ノ目的ニテ人ヲ食フ例	五六
第十四	葬式上ノ義務トシテ死人ヲ食フ例	五七
第十五	結論	五九
目 録		
第十六	緒論	六五
第十七	死者ニ食物トシテ人肉ヲ供スル場合	六七
第十八	神前ニ食物トシテ人肉ヲ供スル場合	六九
第十九	死者又神前ニ怨ヲ晴サシメン爲メ人肉ヲ供スル場合	七二
第二十	誠心ヲ表スル爲メ人体犠牲ヲ行フ場合	七七
第二一	人体犠牲ト殉死ノ區別	八一
第二二	結論	八五

土陽叢書 第八册 食人風俗考

高知縣 寺石正路 著

第一 總論

人類ハ動物ヨリ進化シテ無數ノ年代ト無數ノ變遷ヲ閱シテ今日ノ状態トナレル者ナレバ其解剖上ノ体格其道徳上ノ心性ヲ調査スルニ猶ホ往々動物時代ノ習慣遺傳ヲ繼續スルコトアルヲ免レズ然シテ余ハ今特ニ其習慣中ノ一ナル食人風俗ノ根源并進化ヲ窮メント欲ス

抑モ動物間ニ在リテ特ニ肉食族ニ在リテ生存競争上ヨリ全類異類相闘フハ普通ノ事ナリ而シテ又其争闘ノ結果トシテ勝ツ者食クル者ヲ食フ事アルハ普通ノ事ナリトス人類ト雖モ其由來ハ一箇ノ動物タリサレバ其生存競争ノ場合ニ至リ必要ノ爲メ驅テ、時ハ全類相食ム事アルハ自然ノ事ナルベシサレド人類ハ高等ノ動物ナレバ其智力他ニ勝レ器械使用等ノ方ヲ知ル時ハ其相互ヒノ間ノ争闘モ一層激烈カ又反對ニ容易ナルニ至

ラシ然シテ人類ニシテ一度ビ食人ノ風ヲ始ムル時ハ競争激烈トナリ其勝利者トシテハ
 次第ニ優等ノ人種ヲ遺スベキモ淘汰ノ甚ダ過激ナルハ却テ人口ノ減少ヲ來タシ其風俗
 ノ久シク行ハル、ニ及ビテハ或ハ部落ノ自滅ヲ招クモノナキニアラザル可シ此ノ如キ
 ナ以テ今日生存セル人類ハ皆食人ノ風俗ヲ適宜ノ時機ニ止メタルモノニシテ人口ノ蕃
 殖此ノ如ク盛ニ至ルハ素ヨリ當然ノ事ナリトス然レドモ今日ニ至リテモ猶ホ南洋島中
 或ハ暗黒亞非利加中ニ在リテハ依然トシテ其舊慣ヲ引キ續ケルモノ間々之レアラシモ
 其風俗ノ厲行愈甚シケレバ結局部落ノ絶滅ヲ招クニ至ルモノナレバ到底其現狀ヲ永遠
 無窮ニ引キ繼グコトハ或ハ難カラン
 然ルニ人類ハ又一方ヨリ見レバ古キ遺傳的ノ天性ヲ容易ニ脱却シ得ル者ニアラズ譬ハ
 ハ今日ノ体格上ニ在リテモ猶ホ古キ動物時代ノ組織ヲ現存シ或ハ實用ヲ失ヒタル儀式
 器關 Ritiary Organ ナ存スル如ク今日ノ心性上ニ在リテモ猶ホ古キ動物時代ノ
 性質ヲ現存シ往々殘忍ニシテ不規則ナル舉動ヲナスコト多キコトアルハ又生理上免レ
 難キ自然結果ナルベシ

「パンマホット」 Bagehot ハ嘗テ其生理并政治、Physics and Politics」ニ論マテ曰ク
 千七百年代佛國革命ノ時人心狂亂ノ極度ニ達シ人ヲ殺シ血ヲ流シ備サニ殘虐ノ行爲
 ナ積ンテ恬然之ヲ痛トセザリシハ全ク原人時代ノ殘忍ナル性質ヲ再發セル者ナリ
 蓋シ人類ガ野蠻未開ノ時代ニ在リテ全類相闘ヒ相食ムハ素ヨリ論スルマデナケレド闘
 明ノ時代ニ至リテ猶ホ時トシテ全類相闘ヒ相食ムコトアルハ實ニ全ク原人時代ノ殘忍
 ナル性質ヲ偶然ニ再發セルモノトイフヲ得ベシ
 抑モ人類ハ道德法律ノ進ミタル開明社會ニ在リテハ些細ノ惡事モ摘發非難シテ少シモ
 假借セズ況ンヤ食人ノ如キハ非人倫ノ大罪トシテ拮擊痛撃シテ餘力ヲ遺サザル如キモ
 試ミニ裏面ニ立チ入りテ其社會ノ真相ヲ偵察スレバ一箇人ニ在リテハ毆打、強盜、決
 闘、復讐其他様々ノ故殺、謀殺等ノ骨ヲ碎キ血ヲ流スノ慘酷犯罪日ニ絶間ナク新聞紙
 ノ如キ其報道ニ殆ド忙殺セラレズ有様ニテ又國家ニ在リテハ或ル權利ノ競争上ヨリ
 他ノ國家ト戦争ヲ試ミ精巧ノ器械ヲ利用シテ互ニ多數ノ殺人ヲナサンコトヲ計リ歴史
 上累々トシテ其例ヲ絶タザル如キ刑事的人類學社會的人類學上ヨリ觀察スルトキハ其

原因如何ナル道理ニ本クヤハ合論セズト雖モ兎ニ角人類ハ口ニ開明ヲ唱ヘ自ラ進歩ヲ許セル中ニモ古キ原始時代ノ野蠻的天性ヲ全ク脱却シ能ハザルヨリ生存競争上遂ニ此ノ如キ慘行ヲ逼出スルヲ免レザルハ已ムヲ得ザル事實ナリ夫レ然リ人類已ニ開明ノ時代ニ進ミタル者モ骨ヲ碎キ血ヲ流ス殺人ノ業ヲ容易ニ忍ブトスレバ更ニ一舉手一投足ノ勞ヲ積ミテ其肉ヲ食フ如キハ又容易ニ忍ブ所ナランサレバ東西ノ歴史ヲ讀ムニ其未開ノ時代ハ之ヲ除キ割合近代ノ開明時代ニシテ宗教的道德ノ十分ニ理解サレタル社會ニ於テサヘモ歴々食人ノ痕跡ヲ發見スルハ敢テ驚クニ足ラザル事ナルベシサレド食人ノ風俗ハ已ニ上ニ述ベタル如ク人爲淘汰ノ尤モ激烈ナルモノナレバ素ヨリ其結局ニ於テハ年代ノ推移ニ隨フテ次第ニ減少ノ傾キアルヤ論ヲ待タザル事トス

第二 食人ノ種類

人類已ニ未開開明ヲ問ハズ生存競争上ノ結果トシテ自然必要ノ時機ニ及ベハ全類ノ相食トコトアリトスルモ其自然必要ノ時機トイフモノハ亦圍外事情ノ緩急ニヨリ異ナルコトアリ先ヅ單ニ食欲上ノ發動禁ヲ難キヨリ全類ヲ食フニ至ルコトアリ次ニ或ハ食欲

上ニアラズ却テ他ノ心性上ノ發動ニヨリ故意ニ全類ヲ食フニ至ルコトアリ其結果ハ一様ニ出ヅルモ其原因ハ各種各別ナリトス

今其風俗ノ根源ヲ調査シ之ニ人類學的ノ分類法ヲ下セバ

第一○食欲上○ Physical 食物トシテ人ヲ食フ場合

第二○情感上○ Emotional 感情ノ爲メ驅ラレテ人ヲ食フ場合

第三○道德上○ Moral 或ル善良ノ目的ヲ仕遂ク爲メ人ヲ食フ場合

以上ノ三種アルガ如シ

第一ノ場合ニ於ケル食欲上食物トシテ人ヲ食フハ最モ單純ニシテ原始的ノ食人トイフヲ得可ク譬ヘバ動物ト雖モ食欲上他ノ動物ヲ食フハ最モ普通ノ事ニシテカ、ル自然必要上ノ全類相食ムハ必ズシモ人類以上ニシテ初メテ行ハル、モノニアラズサレバ此ノ如キ場合ニ於ケル食人ハ猶ホ人類天性中動物的性分ノ發動ニ本ツケルモノトイフヲ得ヘク假ニ之ヲ名ツケテ動物的ノ食人トイフ

第二ノ場合ニ於ケル情感上感情ノ爲メ驅ラレテ人ヲ食フハ稍々高尚ナル食人ノ如キモ

元來情感 Emotion ハ動物ト雖モ之レアリ是レ亦人類ノ特有ニアラズ譬ヘバ動物ニ
 テモ敵ニ襲ハレタル時ハ憤怒ノ心ヲ發シ其咆哮ノ勢ニ乘テ敵ヲ殺シテ遂ニ其肉ヲ食
 フ如キハ猛獸類ノ常態ニシテ人類ガ情感ニ驅ラレテ全類ヲ殺シ之ヲ食フモ其間少シ
 上下ノ階級アルコトナシサレバ此ノ如キ場合ニ於ケル食人ハ猶ホ又人類天性中動物
 性分ノ發動ニ本ツケルモノトイフヲ得ベク假ニ之ヲ名ツケテ動物的ノ食人トイフ
 第三ノ場合ニ於ケル道德上或ル善良ノ目的ヲ仕遂グル爲メ人ヲ食フハ最モ高尚ニシテ
 比較上進歩的ノ食人トイフヲ得可シ蓋シ動物ニモ或ル高等ノ種族ニ至テハ單簡ナル智
 識道德ハ之ヲ有スルモノ素ヨリ其程度ハ至テ低下ノモノニシテ或ル善良ノ目的ヲ仕遂
 グル爲メニ何等ノ舉措ヲナス等ハ殆ド絶無ナリトスサレバ彼等ノ社會ニアリテカ、ル
 事情ヨリ全類相食ニ至ルコトハ決シテアリ得可カラザル事ナリ即カ、ル場合ニ於ケル
 食人ハ全ク唯一ノ人類の性分ノ發作ニ本ツケルモノトイフヲ得可ク假ニ之ヲ名ツケテ
 人類の食人トイフ
 以下請フ余ガ見聞ノ及ブ東西ノ書志ニツキ聊カ其例証ヲ枚舉シテ事實ノ存在ヲ示シ併

セテ此ノ如キ奇有ノ習慣モ詳カニ其現狀ヲ研究スルトキハ亦一定ノ進化道理ヲ離レザ
 ル殊勝ノ有様ヲ述ベント欲ス

第三 食欲上人ヲ食フノ場合

人類ハ生物ナリ食物ヲ食ハザレバ一日モ其生存ヲ保ツ可カラズ食物ニ數種アリ動物性
 ノ物アリ植物性ノ物アリ陸上ニ在ル物アリ海中ニ在ル物アリ肉ノ硬ナル物アリ軟ナル
 物アリ味ノ美ナル物アリ惡ナル物アリ其他千差萬別一々枚舉シ盡ス可カラズサレド人
 類ガ其中ニ處シテ食物ヲ撰ブニハ

- 第一其獲易キ物ヲ撰ブ
- 第二其味ノ佳キ物ヲ撰ブ

蓋シ人類ハ生存競争上ヨリ食物ヲ撰ブニ方リテハ取り難キ危險ノ地ニ在ル物ヨリハ取
 リ易キ安全ノ地ニ在ル物ヲ撰ビ其味ノ麗惡ナル物ヨリハ其味ノ佳美ナル物ヲ撰ブハ素
 ヨリ人情ノ常トシテ殆ド辯テ加フル迄モナキコトナルベシ
 然ラハ今人類ガ一步ヲ進メ生存競争上ノ自然結果ヨリ全胞ノ人類ヲ食フニ至リテモ亦

○食欲上人ヲ食フノ場合

全一ノ條理ヲ免レザルモノアラン乃チ

第一ニ獲易キ食物ヲ撰ブ

ノ道理ヨリ彼ノ同胞ノ中ニ在リテ比較上抵抗ノ激烈ニシテ容易ニ獲易カラザル個強ノ壯者若クハ敵人ヲ殺シテ食ハシヨリモ比較上抵抗ノ無力ニシテ容易ニ手ニ入ル可キ小兒、婦人、病者、老人類ノ肉ヲ食フナラン而シテ死人ノ如キハ素ヨリ何等ノ抵抗アル道理ナケレバ其中ニ在リテ最モ獲易キ食物タルコトハ論ズルマデモナシ次ニ

第二ニ味佳キ食物ヲ撰ブ

ノ道理ニヨリ已ニ獲易キ食物ノ中ナル即チ小兒婦人病者老人死者等ノ中ニ在リテハ先ツ第一ニ比較上其肉ノ軟カニシテ味ノ美ナル小兒婦人ノ肉ヲ食ヒ次ニ第二ニ比較上其肉ノ硬ラシテ味ノ淡ナル病者老人ノ肉ヲ食ヒ最後ニ下等ノ死人ノ肉ヲ食フナランサレバ人類ガ普通ニ食欲上食物トシテ人ヲ食フ上ニ於テ單ナル理論上ノミノ解釋ヲ下セバ其普通撰食ノ方ハ先ツ左ノ如シ

第一ニ小兒婦人ヲ食フ

第二ニ病者老人ヲ食フ
第三ニ死者ヲ食フ

然リト雖モ人類ノ撰食ノ方ハ實際上ニ在リテハ決シテ右ノ如キ順序ノ端正ニ調子ノ單一ナルモノニアラズ孰レモ其社會ニ生ズル天然上人事上數多ノ原因相集マリテ起コレル習慣遺傳ノ都合ニヨリ様々ノ變化ヲ生スル者ニシテ或ハ單ニ第二ノ食人アリテ第一ノ食人ナキモノナリ或ハ單ニ第三ノ食人アリテ第二ノ食人ナキモノアリ譬ヒ等ク食人ノ風行ハル、トスルモ其如何ナル種類ノ人ヲ食フヤハ各地到ル所各多少ノ相違アリテ一々一様ナル規律ニ束縛シ雖シトナスサレド世間ノ事ハ何事ニテモ絶對的ニ論ズル時ハ理論通り行ハル、モノハ一モ是レ無キモノナレハ窮屈ニ論ズレバ殆ド議論ノ着ケ所無キ様ナレド實際上ノ事實ハ細カニ諦察スレバ必ず又一定ノ道理ヲ離レズ唯境遇ノ變移ニヨリテ自然ノ應化ノ痕ヲ示スニ過ギザレバ先ツ大体ニ就キ理論上ノ解釋ヲ下シレカル後一步ヲ進メテ實際上ノ事實ヲ整頓スルハ尤モ學術研究上ノ妙法ナルベシ因テ以下先ツ章ヲ分チテ以上三種食人ノ例証ヲ示スベシ

○食欲上人ヲ食フノ場合

第四 小兒婦人ヲ食フ例

十

人類ガ他ノ人類ヲ食フ中最モ獲易フシテ最モ味ノ美ナルモノヲ小兒婦人トナス就中其
二者ノ中ニ於テ又比較上獲易キモノヲ小兒トナスサレバ人類ガ最モ原始的ニ最モ自然
的ニ人ヲ食フニハ必ズ第一ニ小兒ヲ食ヒシナラン今先ヅ亞非利加ノ黑人ガ小兒ヲ食フ
例ヲ舉グレバ左ノ如シ

「チャールズ、ダブリユー、ダーリング」C.W. Darling ノ人類學 Anthropology ニ曰ク
亞非利加「スウダン」國東南ノ「ニヤムニヤム」Niam-niam 近傍ニ住スル「マブーク」
Bibok 黑人種ハ小兒ヲ食フヲ嗜ミ其脚頭ヲ擧ミ額ヲ地ニ撲チ付ケ生命ノ絶ユルヲ
待チテ煮熟シテ食フ

次ニ歐羅巴人ガ小兒ヲ食フ例ヲ舉グレバ左ノ如ク「ダーリング」ノ人類學ニ曰ク
「ランドセイ」Lindsay ノ言ニヨレバ千四百六十年「ヤエームス」二世ノ御代英國ニ
奇代ナル食人者アリ人肉ニ就テハ天賦禁ヲ難キ程ノ嗜好ヲ有シ常ニ幼者小兒ヲ拐帶
シ之ヲ食ヒタリ彼ノ常言ニ人肉ハ幼者程味美キハナシト云ヘリ後其行跡發覺シテ夫

婦共燒キ殺サレ唯一女子ヲ殘セシガ是又如何ナル事ヲ仕出スニ至ルヤ知ラズトテ
成長ノ後燒キ殺サレタリキ
又全書ニ曰ク

千五百十九年頃以太利國「ミラン」府ニ「エリザベス」Elizabeth トナン呼ベル女ア
リ非常ニ人肉ヲ嗜ミ小兒ヲ盜ミ出シ家ニ縛リ付ケ殺シテハ擧頭トナシテ之ヲ打食ヒ
タリ後其行跡發覺シテ車裂ノ上燒殺サレタリキ

次ニ亞細亞人ガ小兒ヲ食フ例証左ノ如シ
十八史畧一卷齊桓公章ニ曰ク

仲病、桓公問、群臣誰可相、易牙如何、仲曰、殺子以食君、非人情不可近、
歐陽修五代史四十七卷雜傳長從簡ノ傳ニ曰ク

長從簡陳州人也本屠羊好食人肉所至多潛捕民間人兒以食
元ノ陶宗儀ガ輟耕錄ニ曰ク

天下兵甲方殷而淮右之軍嗜食人以小兒爲上……

○小兒婦人ヲ食フ例

食 人 風 俗 考

要スルニ人類ガ小兒ヲ食フハ下ハ亞非利加黑奴ノ如キ蠻人ヨリ上ハ歐羅巴人亞細亞人ノ如キ開明人種ニ至ルマデ畢竟其獲易キト其味旨キトノ道理ニヨリ嗜好一轍ニ出デ實ニ食人風俗ノ最モ理論的先驅ナルモノニ似タリ

サレド實際上ヨリ觀察ヲ下セバ小兒ハ又大人ノ種ナリ人類ガ一時ノ嗜好ニ任セテ無制限ニ之ヲ食フ時ハ却テ自己部落等ノ相續者ヲ滅シ結局自滅ヲ招クニ至ルモノナレバ人類ノ經驗進ミテ其道理ヲ悟ルニ至レバ自然ニ其風俗ヲ滅シ猶ホ嗜好ノ忍ブ能ハザル者ハ或ハ小兒ノ中ニテモ癩癩ニシテ將來部落ノ存立ニ見込ナキモノヲ撰ビテ之ヲ食フニ至ルナラン

然ルニ社會道德ノ更ニ一段ノ進歩ヲナシ食人ノ俗ハ到底非行ノ所爲ナリトノ自覺ヲナスニ及ビテハ食物ニ供スル目的ニテ小兒ヲ殺サル、モ社會存立上自然淘汰ノ必要ニヨリ猶ホ抵抗ノ力ナキ小兒ノ墮胎壓死若クハ其遺棄捨殺ノ風俗ヲ生ズルニ至ラン本邦ノ歷史上ニ在リテモ墮胎壓死ノ風俗行ハレタル事ハ極メテ夥多ニシテ一々枚舉ス可カラズ殊ニ徳川氏時代ノ如キハ小兒ノ壓殺ハ道德上左程ノ重罪視セラレズ唯不仁ナル心

食 人 風 俗 考

得違位非ノ制裁ニテ隱然ニ其公行セルハ世人ノ偏子ク見聞セル所ナリ

又小兒遺棄ニ就テ世界史上最モ有名ナルハ希臘國「スパルタ」府ノ事トナス希臘ノ諸歴史ニ曰ク

紀元前八百年代「スパルタ」府ニ「ライコルガス」トイヘル一ノ立法者アリ嚴格ナル法令ヲ布キ武斷ノ教育ヲ施シ府民ノ小兒中生レテ羸弱ナル者ハ將來其都府ノ自存ニ補ナキヲ以テ盡ク府外ノ山上ニ遺棄シテ捨テ殺ニシテ顧ミサル風ヲ立テタリ是ガ爲メ「スパルタ」人ハ強壯ノ人種ニ遺ヨリ其武力ノ強大隣國ニ比ナカリキ……………

次ニ我日本ノ歴史ニ就キ小兒遺棄ノ古例ヲ求ムルニ政事要略七十卷貞觀九年三月七日ノ宣旨ニ左ノ文アリ曰ク

右大臣宣京中諸人捨○男○兒○於○道○路○遂○爲○犬○馬○見○害○喫○是○即○職○吏○之○不○治○人○民○之○不○仁○也云々

蓋シ「スパルタ」ノ小兒遺棄ハ強壯ナル人種ヲ遺サントシ羸弱ナル小兒ヲ棄殺ニスルモノニシテイハヤ政治上ノ意味アル如キモ要スルニ畢竟羸弱ナル小兒ヲモ養フニ足ル可

○小兒婦人ヲ食フ例

キ十分ナル食物ノ餘裕ナキヨリ起コリシ者ニテ到底自存淘汰上ノ所爲タルヲ免カレズ
又我日本ノ小兒遺棄ハ全ク食物ノ欠乏生養ノ困難ヨリ起コリシ者ニシテ自存淘汰上ノ
所爲タル論ズルマデモナカルベシ殊ニ我日本ノ如キハ全一ノ事情ニヨリ全一ノ結果ヲ
生シ今ニ至ルマデ猶ホ往々墮胎棄兒ノ事實ヲ見認ムルコトアルハ世人ノ默悟スルト
クナラン

然ルニ世運ノ進歩更ニ一段チ加ヘ強者ノ弱者ヲ保護スル道德大ニ發達スルニ及ビテハ
遂ニ育兒院等ノ建設起コリ一箇人ノ存立上生養スル能ハザル棄兒等ハ有志公力ニテ給
ヒ俟メテ之ヲ養育スルニ至ル我日本ノ如キハ古ク王朝ノ比ヨリ已ニ悲田院(天平、延喜
寛平頃ノ諸史ニ累見ス)等ノ建設アリテ孤兒棄兒ヲ拾養セルハ史上ノ美談タリ抑モ之
ヲ以テ太古原始ノ世食物トシテ惜氣モナク小兒ヲ食ヒシ時代ニ比シテ其道德制裁推移
ノ變大ナルヲ思ヘハ實ニ一驚ノ外ナカルヘシ
次ニ女子ヲ食フ事ヲ述ベンニ女子ハ又小兒ニ亞テ獲易ウシテ味美ナルモノナレバ人類
ガ最モ原始的ニ最モ自然的ニ人ヲ食フニハ必ズ第一ニ之ヲ食ヒシナラン

今開明人種ニ就テ獲タル其例証ヲ舉ゲン
十八史略五卷睢陽城ノ條

巡遠謀曰睢陽江淮之堡障也云々不_レ如堅守以待_レ救茶紙盡遂食_レ馬馬盡羅_レ雀_レ鼠_レ雀
鼠又盡巡_レ殺_レ愛_レ妾_レ以_レ食_レ士四萬人僅餘_ニ四百_一終無_ニ叛者_一云々

コハ籠城饑飢ノ非常ノ際ニテ一概ノ例証ト見做ス可カラザルモ其女子ノ肉ヲ撰ブハ實
ニ其獲易キ等ノ爲ナラズンバアラス

宋ノ趙興時ノ寶退錄ニ曰ク

本朝王繼勳孝明皇后母弟太祖時屢以_レ罪貶後以_ニ右監門衛率府副率_一分_ニ司_一西京_ニ殘暴
愈甚強市_ニ民間子女_一以_レ備_ニ給使_一小_レ不_レ如_レ意_レ即_レ殺_レ而_レ食_レ之_一太宗即位會有_ニ訴者_一斬_ニ于
市_一

又輟耕錄ニ曰ク

天下兵甲方殷而淮右之軍嗜食_レ人以_ニ小兒_一爲_レ上_レ婦女_レ次_レ之_一男子_レ又_レ次_レ之_一或使_レ坐_レ兩缸
間_一外逼以_レ火或於_ニ鉄架上_一生炙或縛_ニ其手足_一先甲沸湯澆潑却以_ニ竹帚_一刷_ニ去_レ苦皮_一或

○小兒婦人ヲ食フ例

棄ニ夾袋中ニ入ニ巨鍋ニ活爨或剖作事件而淹之或男子則止斷ニ其雙腿一婦女則特別ニ其兩乳ニ酷毒萬狀不可言……

要スルニ人類ガ女子ヲ食フハ其獲易キト其味甘キトノ道理ニヨリ小兒ニ亞ギテ尤モ嗜好ヲ抱キタルハ理論上爭フ可カラザル事實タリ

然ルニ又實際上ヨリ着眼スル時ハ聊カ事實ノ稍ヤ然ラザル如キ者アリ蓋シ

第一女子ハ人種繁殖上必要ナル生殖義務ヲ有ス

第二女子ハ未開ノ社會ニ在リテハ大抵男子ヨリ下位ニ位シ且ツ普通ニ男子ノ玩弄物

又財産視セラルノ風アリ

サレバ之ヲ小兒ニ比スルニ其實用上ノ價直彼ノ小兒ノ外見の無用ナル贅物ト輕重素ヨリ大差アリ然ラバ人類ハ等シク二者ヲ食トシ得ル場合ニハ無論先ヅ理論上ニ在リテハ小兒ヲ撰ビ食ヒシナル可キモ小兒ニ亞ギテ女子ヲ同一ノ分量程夥シク食ヒントハ殆ド信ヲ難キ事實ナル可シ蓋シ人類ハ右ニ記スニ道理ニヨリ夥シク女子ヲ食フ時ハ左ノ結果ヲ生ズベシ

食 人 風 俗 考

食 人 風 俗 考

第一人口ノ減少ヲ來シ結局部落ノ衰亡ヲ招ク

第二玩弄物財産ヲ潰シテ己レガ娛樂ノ資ヲ減ズ

サル時ハ人類ノ經驗進ミテ其道理ヲ悟ルニ至レバ自然小兒ヲ食フノ風俗未ダ絶エザル中ニアリテモ速カニ其女子ヲ食フ風俗ハ減ズルニ至ラン蓋シ一般ニ食人人種ノ風俗トシテ往々敵ト戦フテ其村落ヲ襲ヒ個強ノ男子ハ捕虜トシテ引キ來リ打殺シテ食フ場合モ女子ハ助ケテ妻妾トシテ用ユルハ各地至ル所通有ノ事ニシテ其女子ガ單ニ獲易キト味美キトノ道理ヲ持チナガラ食ハル、エトテ免ルレバ至ク比較上小兒ノ如キ贅物ニアラデ他ニ用ユ可キ所アルヲ以テナラン

抑モ女子ガ原始ノ世ニアリテ男子ノ玩弄物財産トナリテ食人ノ行ハル、際モ早ク其犠牲トナルコトヲ免レテ以來社會人智ノ進歩ニ伴フテ始メテ其真正ノ位置ヲ得漸ク進ミテ男子ト對等ノ地位ヲ保チ更ニ一躍シテ今日西洋ノ如キ男卑女尊ノ風俗ヲ生ズルマデニ至ルハ實ニ驚ク可キ進化ノ段階ヲ經タリトイフベシ

第五 病者老人ヲ食フノ例

○病者老人ヲ食フノ例

人類が他ノ人類ヲ食フ中其獲易キコトハ小兒婦人ト一様ナルモ其味ノ旨キハ彼ニ及バズシテ第二等ノ食物トナス可キ者ヲ病者老人トナス

「ウリヤムヤースマン」W. Marsden ノ「スマトラ」史 History of Sumatra ニ曰ク

馬來人種ノ一派ニシテ「スマトラ」島ノ北方ニ住スル「パッタ」Patta 人種ハ非常ニ人肉ヲ嗜ミ家族中年老イタルモノアラハ大抵之ヲ食ヒテ殘スコト希ナリ

「タイロル」Taylor ノ人類古代史 Early History of Mankind ニ曰ク

亞米利加ノ「アラワル」印度人ノ中悍勇ナル者ハ老人病者ヲ以テ無益ナル者トナシ棒モテ頭ヲ打ち之ヲ殺シ時トシテハ之ヲ食フ事アリ

蓋シ人類が他ノ人類ヲ食フコ方リ其獲易キト味美キトノ上ヨリ論ズレハ小兒婦人ヲ第一トナスモ無制限ニ之ヲ食フ時ハ人口ノ蕃殖ヲ妨グ自部落ノ衰退ヲ招クヲ以テ自然淘汰上全一ニ獲易ク味ハ稍劣ルモ其殺滅ハ部落ノ消長ニ關セザル老人病者ヲ食フニ至ルハ自然ノ事ナルベシ

抑モ生存セル人類ノ中比較的ノ論評ヲ下セハ其社會ニ尤モ不生産ニシテ無益ナル者ハ

老人病者ニ如クハナシサレバ食物等ノ欠乏シテ生存競争ノ激烈ナル場合ニ至レバ食人ノ俗アラソ限リハ必ズ老人病者ヲ殺シテ食フハ廢物利用ノ上ヨリ見ルモ便利ノ仕方ナリト評スベシサレド其社會ノ人心稍々進歩シ等シク食物等欠乏スルモ食人ノ俗已ニ已ミタル時ハ老人病者ヲ食フコトハ之レヲ爲サズ唯之ヲ殺シテ其煩累ヲ除クニ止ムベシサレド又一步ヲ進メテ其社會ノ人心一層ノ德義ヲ重ズルニ至レバ直接ニ老人病者ヲ殺サイルモ道路屋外等ニ遺棄シテ其死ヲ願ミザル位ニ至ラン食人風俗ノ忘レラレタル社會ニ於テ猶ホ自然淘汰上病者老人ヲ遺棄スル例ハ東西史上ニ多ク散見スルトコロナリ

今先ツ本邦ノ史乘ニ就キテ之ヲ証セン

先ツ病者ヲ遺棄セン例ハ類聚三代格十二卷弘仁四年六月一日ノ大政官符ニ曰ク

今天下之人各有僕隸平生之日已役其身病患之時即出路邊無人看養遂致餓死此之爲弊不可勝言云々

政事要略七十卷延長八年十二月十三日ノ宣旨ニ曰ク

左大臣奉勅如聞頃者京中病者多臥路頭無人拾養誰救其命云々

○病者老人ヲ食フノ例

次ニ老人ヲ遺棄セシ例ハ彼ノ有名ナル大和物語ニ見ユル、姨捨山ノ古事ニシテモ物語ノ要ヲ摘メバ曰ク

二十

昔シ信濃國更科ニ一人ノ男アリ少ウシテ親ヲ失ヒ叔母ヲ親ノ如クニ尊ミシガ其男ノ妻タル者ハ心根惡シクシテ常ニ其叔母ヲ厄介物ナリトシ色々夫ニ讒口ヲ申立テ遂ニ其叔母ノ年老イテ用ナキ物トナルヲ捨ツ可ト勸メシカバ夫タル男モ之ヲ實トシ一夜月明ノ夜叔母ヲ結キ寺參サセント背負ヒ出テ高山ノ頂ノ往來モ六箇敷所ニ連レ行キテ捨テ歸リタリ叔母ナル人悲ミテ月ニ對シテ彼ノ我心云々ノ歌ヲ咏セシニ彼ノ男後哀レト思ヒケン再ヒ叔母ヲ迎ヒ歸リヌ是ヨリ其山ヲ姨捨山トイフ云々（或ハ曰ク此物語ハ作り話ニシテ實談ニアラストサレト猶ホ古代風俗ヲ見ル一參考トナスニ足ラン因テ暫ク引用ス）

偕テ人類ガ生存競争上ヨリ老人病者ヲ食ヒシ時代ハ一進シテ老人病者ヲ徒殺スル時代トナリ老人病者ヲ徒殺スル時代ハ一進シテ老人病者ヲ遺棄スル時代トナル然シテ今ヤ徳義ノ進歩一層ヲ加フル時ハ老人ノ如キハ退隱即チ隱居ヲ許サルコトナリ社會ヨ

リ特別ノ待遇ヲ受クルノ時代ニ至ルベシ蓋シ今日我日本等ニ於テ男子六七十歳ニ至レバ隱居ト稱シテ政事家事ヲ抛チ子孫ノ奉養ヲ受ケ安樂ノ餘命ヲ送クルノ習慣アルモノ抑モ上古ヨリ老人ガ廢物トシテ食ハレタル時代ヨリ此方無數ノ進化的段階ヲ歴テ是ニ至リタルモノナラン

第六 死人ヲ食フノ例

人類ガ他ノ人類ヲ食フ中其獲易キコトハ小兒婦人病者老人ニ勝サルモ其味ノ旨キハ彼ニ及バズシテ第三等ノ食物トナス可キモノヲ死人ノ肉トナス

「ダーリング」ノ人類學ニ曰ク

「バック」Bucke ノ言ニ由レバ亞細亞印度人種ノ中「パラマハウサン」族 Paramahausan 「ガンヤス」河ヲ流レ下ル死人ノ腐敗セル肉ヲ打チ食フ習アリテ彼等ハ其尸体中腦部ヲ以テ食物中最美ノ物トセリ

「アースキーン」Eskine ノ西太平洋巡島記 “Cruize among the islands of the Western Pacific” 曰ク

○死人ヲ食フ例

「ウバチアン」Vulcan 人種ハ三日以上モ地中ニ葬ラレタル死体ヲモ引出シ料理シテ食フ事アリ

二十二

鈴木經勳氏ノ「マーシャル群島（東京地學協會報告）ニ曰ク
通常土人ノ死スル時ハ其死体ハ近傍ノ無人小島ニ投ケ捨ツ翌日行キ見レバ全体ノ肉ヲ所々切り取ルヲ見ル則チ土人其肉ヲ持チ歸リ食ヒシモノナリ是レ常人ノ葬式法ナリ（大意）

抑モ人肉ハ生時中ニ屠殺シタルモノヲ食フ時ハ滋養多量ノ蛋白質ヲ含ミ他ノ動物肉ト大差ナク一種ノ良食料タルニ相違ナキモ死後ノ肉ニ至リテハ生理的變化ノ爲メ「ミシシ」即チ筋肉素異狀ヲ來シ軟美ナル肉質ハ變シテ有毒危険ナル「プトメイン」性トナル之ヲ食フ時ハ恐ル可キ中毒病性ヲ發作スルコトアリサレド未開人種ニアリテハ元來消化力開明人種ニ勝リ居レバ習慣ノ久シキモノハ吾人ガ豫想スル如キ惡結果ヲ見ズ現ニ今日ノ我日本ニ於テ衛生上死牛馬ノ肉ヲ販賣スルヲ禁シ居ルモ穢多人種ハ其廉價ヲ利シ嗜ミテ之ヲ食フモ比較的健健康ヲ損セザル如キ其參考ノ一傍例ト見做スコ足ラ

カ但シ上交例証中印度ノ「パタマハウサン」族ガ死肉ヲ食物中最美ノ物トナストイヘ
ルハ稍々過奇ニシテ決シテ尋常比較上ノ談ニアラズ寧ロ一種ノ病的嗜好ト評ス可キニ似タリ

蓋シ死人ハ生人ニ比シテ社會存立上少シモ必要ノナキモノナレバ食欲ノ動キ次第之ヲ取リ食フハ廢物利用ノ上ヨリ見ルモ亦一舉雙得ノ舉トイフベシサレバ食人風俗ノ行ハレシ社會ニシテ少シク道德智識ノ進歩アリテ生人ヲ食フノ自部落存立ノ競争ニ不利益ナルヲ悟ラバ自然ニ其嗜好ヲ死人ニ向クルハ又至當ノ事ナル可シ然リト雖モ若シ社會制裁ノ更ニ一步ヲ進メ且ツ食物供給ノ十分トナリテ他ニ獲易クシテ味旨キ食物ヲ得ルニ至ラバ人類ハカ、ル下等ノ食物ヲ捨テ、其獲易キ味美キ食物ヲ撰ブニ至ルハ又尤モ當然ニシテ別ニ嘔々ノ辯ヲ待チテ後チ知ル事ニアラザルナリ

第七 壯者又敵人ヲ食フ例

人類ガ他ノ人類ヲ食フ中其獲易ウシテ味善キハ小兒婦人ヲ最上トナシ病者老人ヲ中等トナシ死人ヲ最下トナス今ヤ人類ハ其嗜好ノ程度ヲ進メ徒ラニ此等ノ獲易ウシテ味善

○壯者又敵人ヲ食フ例

キ食物ニ満足スル能ハズ生存競争ノ激烈ナル結果ヨリ比較上獲難ウレテ味善キ食物ナ
 ○○壯者又敵人ヲ攻撃シテ食フニ至リテハ其風俗モ亦殆ド極端ニ達セリトイフベシ
 蓋シ人類ノ中小兒婦人病者老人等ハ孰レモ抵抗ノ少フシテ容易ニ捕獲シ得可キ食物ナ
 ルモ壯者又倔強ナル敵人ニ至リテハ比較上抵抗ノ強フシテ否ナ寧ロ或ル場合ニハ却テ
 己ヲ死地ニ陥ル程ノ危険ナルモノナレバ人頭、食人中ニモ最後ノ場合ニアラザレバ行
 ハレザルモノトス
 今先ヅ尋常壯者ヲ食フ例ヲ示サン

支那人ニ就テハ陶宗儀、輟耕錄ニ三國志ヲ引イテ曰ク

吳將高澄好使酒嗜殺○人而飲其血○日暮必於宅前後○燎○行人而食之○
 唐ノ張鷟ノ朝野僉載ニ曰ク

武后時杭州臨安尉蔣震好食○人肉○有債主及奴○詣臨安○止於客舍○飲之醉○竝殺之○
 水銀和煎并骨銷盡後又欲食其婦○婦知之踰牆而逃以告縣令○令詰之具得○其
 狀○申州錄事奏奉勅杖一百而死

歐洲入ニ就テハ「ダーリング」ノ人類學ニ曰ク

英國食人ノ最モ古キ例ハ紀元後八百年代「サキソン」人種ガ「ウエールス」征服ノ
 時分ニシテソハ古キ歴史ニ記サレ英王「エセルフリッス」Egolfrikハ廷臣中ニ食
 人ノ風ヲ流行セシメ又「ウエールス」土人中「グリ」Gwiトイヘル者ハ別シテ人
 肉ヲ好ミ日々ノ食事ハ殆ド人肉ニノミ限リシニ彼ハ土曜日ヲ安息日トスル「ヤニス」
 教徒ナリシ故其日丈ハ謹慎ヲ表セシモ他ノ六日ハ日毎ニ男女各一人ツ、ヲ屠殺シテ
 喰フヲ禁マ能ハザリキ

太平洋島人ニ就テハ鈴木經勳氏ノ南洋探險實記ニ曰ク

「マーシャル」群島中「マノワ」アルノ「両島」ハ人氣頗ル殺伐ニシテ今猶人肉ヲ
 食スル風ヲ脱セズ其他ノ島民ト雖モ間々猛惡ナル者アリテ人肉ヲ嗜ミ時ニ漂流人ノ
 饑餓ニ追レルヲ見レハ少許ノ食物ヲ願チテ陽ニ救恤スル如ク思ハセ竊カニ之ヲ屠殺
 シテ其死尸ヲ砂中ニ埋メ夜間人靜マルノ時ヲ待チテ之ヲ掘リ出シ食フ事アリ……
 但シ壯者ハ攻撃セラルトキハ必ズ相當ノ抵抗ヲナスカアル者ナレハ素ヨリ小兒婦人

○壯者又敵人ヲ食フ例

等ノ如キ容易ニ獲易キ食物ニアラズサレバ人類ガ壯者ヲ食ハントスル場合ハ右ノ第一例ノ如ク往來中不意ニ之ヲ襲ヒ殺シ第二例ノ如ク醉眠中俄カニ之ヲ殺シ第四例ノ如ク漂流饑餓中之ヲ欺キ殺スガ如キ孰レモ其乘ヲ易キ機會ヲ作り或ハ欺キ或ハ誑カシ抵抗ハカチ殺イデ之ヲ殺スチ多シトナス然ラザレバ公然相手向ヒテ之ヲ殺スハ彼死スモ我傷ツキ到底安全ナル食物採集ノ仕方ニアラザレバナリ

先ヅ亞細亞人ニ就テハ伏敵篇中引ク所ノ八幡愚童記文永十一年十月十八日ノ條ニ曰ク未明ヨリ蒙古ノ一手陸地ニ押上リ……其中ニ能ク振舞ヒ死シタルヲハ腹ヲ裂キ肝ヲ取テ飲ケルモトヨリ牛馬ノ肉ヲ美キ物トスル國ナリケレバ人ノミナラズ射殺サル、馬ヲモ取リテ食トセリ(コハ文永年間蒙古兵博多ニ上陸シテ我日本戰死者ヲ目ノ方ヲニテ食ヒシ話ナリ)

次ニ亞米利加人ニ就テハ「グアイナル」ノ人類學ニ曰ク

「ブラザル」ノ「ボトソド」Ptoendo 土人ハ戰ニ死シタル者ヲ運ビ去リ之ヲ料理シ

饗宴ヲ開キテ打食フ

次ニ太平洋島人ニ就テハ鈴木經勳氏ノ南洋探險實記ニ曰ク

「フヒーゾー」島ヲ始メ「サモア」「サロモン」等ノ土人が三四十年前マデ盛ンコ人肉ヲ食シ居リシ事ハ屢々記載ンメルガ「フヒーゾー」島ニ滯留セル獨人「レブマン」氏ノ如キハ現ニ之ヲ目撃シタリト今其話ヲ聞クニ氏ハ今ヨリ二十年前「サロモン」島ニ渡航センガ此時全島土人ハ海岸ノ砂場ニ於テ大饗宴ヲ開キ其側ニ二十餘名ノ囚虜ヲ繫ギ置キテ一人ツ、之ヲ引出シ生ナガテ其手足或ハ股ノ肉ヲ殺キ取リ其虜ノ號泣悲鳴セルヲ見ツ、鮮血淋漓タル肉片ヲ舌鼓ヲ鳴ラシナガラ啖フヲ見タリシガ其無慘虐酷ノ狀ハ今尙ホ眼前ニ映出シ忘ル能ハズ云々……

「キヤビテンクック」第三航海記 Cooks Third Voyages 千七百七十八年一月ノ條ニ曰ク二十二日浪高ク上陸スルコトヲ得ズ「アイト」島土人 Atowi (サンドウイツチ群島ノ一)ハ獨木船ニ乘リ來リ豕及草根類ヲ買物セントテ持來リ猶ホ別ニ釣ヲ賣クントテ携ヘ居リ様見エシニ釣糸ニ小キ包物アリテ大切ニ取扱フ故釣ヲ買ヒテ後請

○壯者又敵人ヲ食フ例

フテ其包物ヲ開ケバ人肉ナリキ此時土人ニ之ヲ問ヘハ沙魚ノ齒ヲ付ケタル武器ニテ敵ヲ殺シ其肉ヲ食フト語リキ猶更ニ一老土人ニ就キ人肉ヲ食フコトハ眞カト問ヒシニ彼ハ笑テ含ミテ眞ナリ人肉ハ旨キ物ナリト答ヘヌ

蓋シ人類ガ敵人ヲ食フハ食人中尤モ其嗜好ノ發達セル者ニシテ元來敵人ハ之ヲ説カンモ愚カニ生死ノ抵抗ヲナスモノナレバ人類中ニ在リテハ極メテ獲難キ食料タリサレド其他ノ食人ハ譬ヒ如何ニ容易キトモ皆自部落ノ人類ヲ食ヘハ勞ヒ其結果トシテ自部落ノ繁殖ヲ妨グテ免レズ敵人ニ至リテハ如何ニ之ヲ食フトテ自部落ノ消長ニ少シモ關係ナク且ツ部落ト部落トノ存立競争ノ上ヨリ見レバ却テ敵ニ弱味ヲ與ヘテ味方ニ強味ヲ取ルノ一良淘汰法タルモノナレバ一舉數得ノ利上ヨリ見ルモ尤モ人類ガ食人中適當ナル者ト評ス可シ

サレド社會ノ開明一步ヲ進メ且ツ食物供給ノ他ニ良源ヲ見出スニ至レバ必ズ尋常食物ノ爲メ一身ヲ賭シテ敵肉ヲ食フノ危険ヲ冒ス必要モナク追々其風習ハ跡ヲ絶タン然ルニ部落ト部落トノ競争ハ絶エズ行ハルモノナレバ勝ツ者負クル者ヲ捕ヘテ俘虜トナス

ハ又自然ニ引續キテ起コルベキ事ナリ食人ノ風俗行ハルハ時代ハ俘虜ハ直ニ殺シテレテ食物犧牲ニ供セラレシモ食人風俗絶エシ時代ニハ俘虜ハ直ニ奴隸トセラレテ冷遇虐待ヲ受ケスベテノ厄介ナル勞力ヲ一手ニ引キ受ケテ勝利者ノ爲メニ使役セラル運命ヲ見ン彼ノ未開人種間ニハ孰レノ部落ニモ良民ト奴隸トノ二階級成リ立ツハ主トシテ此ノ如キ原因ニ出デタルナルベシ然ルニ社會ノ事物又一段ノ進歩ヲナシ人類全權ノ說出ツルニ及ビテハ遂ニ奴隸ヲ廢シテ良民トナシ結局萬國公法等ノ進歩ニ及ビテハ開明國ニ在リテハ相互ヒノ戦争ニヨリテ生シタル俘虜モ優遇シテ平和ノ後ニ彼等ヲ無事ニ本國ニ送り還スヲ以テ名譽ノ事トナスニ至ル人類ガ敵人ヲ食フ原始ノ様ヨリ茲ニ至ルマデ進化ノ大ナル實ニ非常ノ事ト評スベシ

第八 飢饉等非常ノ際人ヲ食フ場合

人類ハ平時ニ在リテ尋常食物トシテ人ヲ食フ事アルハ已ニ上文ニ記述セシ如キモ又天災人事上飢饉等非常ノ際ニ在リテ自己ノ存立上已ムテ得ズ必要ニ逼ラレテ人ヲ食フ事アリ蓋シ飢饉等非常ノ際ハ人類ガ生存上最モ非常競争ノ場合ニシテ其生存ヲ爭フニ至

○飢饉等非常ノ際人ヲ食フ場合

リテハ勢ヒ平生絶エテ忍バザル事モ容易ク之ヲ忍ヒ全胞骨肉ト雖モ互ニ相争闘シテ避ケザルニトアリカ、ル切迫ノ時ニ際シテハ世ノ諺ニ急ク用ニハ鼻ヲモ殺グトイハル如ク自己ノ身体ト雖モ猶生命ニ害ナキ部分ハ之ヲ食ヒテ避ケザラントス況ンヤ他人ニ於テチヤ然シテ其他人ノ中ニテ已ニ前條述ブルガ如ク小兒婦人老人病者死者等抵抗カノ少フシテ獲易キ食物ナレバ勢自然ニ先ヅ之ヲ食ヒ次ニ敵人壯者等ハ抵抗カノ大ニシテ獲難キ食物ナレバ勢ヒ最後ニ之ヲ食フトナスサレド旅行、漂流、戰時圍中等ノ場合ニシテ壯者全志ノ外他ニ人ナケレバ勢ヒ最初ヨリ其仲間間ノ弱者ヲ攻撃スルハ又至當ノ事ナリトス今先ヅ開明ノ人種ガ飢饉食人ノ例ヲ舉ゲン

歐羅巴國佛蘭西人ニ就テハ「ターリソング」ノ人類學ニ曰ク
「グラーバー」 Grüber ノ言ニ由レバ千三十三年代佛國ニ大飢饉行ハレ或家ノ主人ハ客ノ來ル時小兒ヲ密室ニ縛リ之ヲ屠リ其肉ヲ饗セシコトアリ又人肉ヲ市場ニ賣鬻シ事ナドハ所々ニ行ハレタリキ……

其時分又或ル貸貸ノ長屋ヲ持テル一人ノ婦人アリケリ其貸屋ヲ借り來ル人ノ十七人

順次ニ殺シ食ヒシニ十八人目 借手ハ之ヲ知リテ其婦人ヲ殺シテ免レタリキ……
次ニ以太利人ニ就テハ同書ニ曰ク

佛國歐文家「プロコピアス」 Procopius ノ言ニヨレバ紀元後五百年代東羅馬帝國ノ雄將「ベリサリヤス」ガ以太利征伐ノ時以太利ハ非常ノ飢饉行ハレ軍中人肉ヲ喫シ生命ヲ支ナル者夥多アリキトイヘリ

紀元後四百十年「セオトシヤス」帝ノ御世「エッス」人ガ羅馬ヲ攻メ圍ミシ時羅馬府民中ニハ大饑飢行ハレ公然市場ニテ人肉ノ賣買アリ數多ノ家婦ハ之ガ爲メ其愛兒ヲ屠殺セリ
次ニ十字軍從軍者ニ就テハ同書ニ曰ク

「ブエケ」 Buoke ノ言ニ從ヘバ千九十七年ニ第一十字軍ガ「アンチオク」ヲ圍ム時耶蘇教徒ナル十字軍ノ陣中ニ大饑飢行ハレ人肉ハ夥シク喫セラレタリ又「マーラ」 Maria 國ノ時モ敵人ノ墓ヲ掘リ其尸肉ヲ食ヒシ事アリ史家「アルバート」 Albert ノ記スル所ニヨレバ十字軍ノ兵士ハ「サラセン」人ノ肉ハ狗肉ヨリ甘シトシテ之ヲ

飢饉ニ非帶ノ際人ヲ食フ場合

賞美セリトイヘ談ヲ載セタリキ

次ニ亞細亞國波斯人ニ就テ全書ニ曰ク

千七百十六年波斯亞富汗戰爭ノ際波斯人ハ「イスバハン」府ニ於テ亞富汗王「マヤツト」Mihandニ圍マレシトキ食物乏欠シテ非常ノ飢饉ヲ感テ波斯人ハ同府民互ニ相食ムノミナラズ實ニ其小兒サヘモ食ヒタリキ

次ニ北亞米利加國「カナダ」人ニ就テ全書「ダ」氏ノ人類學ニ二十年前ノ新奇談ヲ載セテ曰ク

千八百八十六年三月三十日北米「カナダ」國東沖「ケーブプレトン」島 C. Breton ヲリ「ヂエー」マクドナルド「エスマクドナルド」シーチソルム「エーシーチエルン」 J. Macdonard, S. Macdonard, C. Chisholm, A. Neehern. ノ四人ニ本艦ノ漁船ニ乗テ八日間海上ニ漂流セシガ四月八日ニ至リ全島ノ近ナル「ヂヨン」島 Gungon ノ燈臺番人之チ見付ケシニ死尸狼藉シテ中ニモ「ヂエー」マクドナルドノ死体ハ尤モ慘狀ヲ極メ其一本ノ腕ハ肘元ヨリ嚙ミ折ラレ咽喉掻キ破レ兩方ノ股肉ハ切ケニ扶グリ

居テレキ然シテ彼ノ腕ヤ肉ヤ骨ヤハ前後左右ニ投ケ散ラサレ一見恐ル可キ食人ノ痕迹ヲ殘セリ「エス」マクドナルドノ死体ハ船ノ底ニ發見セラレシガ後ニテ聞ケバ是ヲ正シク食人者ニテ同胞「ヂエー」マクドナルドヲ喰ヒシ本人ナリキ「チソルム」「シ」チエルンノ二人ハ生き居リシガ其物語ヲ聞クニ初メ「エス」マクドナルドハ其同胞「ヂエー」マクドナルドノ餓死セシヤ否ヤ其血ヲ甜ソントテ頻リニ嘔キ立テ遂ニ其咽喉ヲカキ破リ血ヲ吸ヒシガ其肉ヲ扶グリ取りテハ時々二人ニ喰ヘヨ喰ヘヨト差出セシモ二人ハ衰弱ノマ、困睡シテ答モセザリシニ最ウ少シ血ヲ甜メタシ其味牛酪ヨリ甘シナド、聲高ク叫ビ廻リシニ死体中ヨリハ遂ニ血ヲ出サル事トナリテ次日ヨリ狂氣ヲ發シ第七日目ニ死シタリキ生き殘リタル二人モ衰弱尤モ大ニ病体孰レモ危篤ノ有様ナリキ云々

次ニ亞細亞國支那人ニ就テハ十八史略一卷ニ曰ク

重耳出奔十九年而後反國嘗饑于曹一介子推割股以食之

續十八史略二卷明世宗條ニ曰ク

○飢饉等非常ノ際人チ食フ場合

甲申三年南畿大飢人相食子殺父弟殺兄有之帝發帑金十五萬以賑
全卷ニ曰ク

甲戌七年云々三月山西自去秋八月不雨至于是月大饑人相食
全四卷清太宗條ニ曰ク

上諭曰云々今我兵圍大凌河經四越月人皆相食竟以死守云々
次ニ我日本國ニ就テハ日本書紀欽明紀ニ曰ク

二十八年郡國大水飢或人相食轉傍郡穀以相救

此ノ如ク開明人種ニアリテモ非常饑飢ノ際ニ在リテ人肉ヲ食フハ生存競争上自然ニ免
レガタキ事トス蓋シ此等ノ人種ニ在リテハ平素已ニ食人ノ風ヲ絶チタルモノモ是レヲ
ラシムル一旦非常ノ場合ニ際シテ忽チ其存立上已ムヲ得ザル事情ヨリ其原人時代ノ風習
ヲ再發セルモノナラシメ若シ其未開人種ノ平常食人ノ風ヲ存セルモノニ至リテハ非常饑
飢ノ際機會ノ許ス限リ人肉ヲ食フヤ否ヤハ殆ド穿鑿ヲマタズシテ明カナル事ナルベシ
サレバ飢饉等非常ノ際人ヲ食フハ聊カ其平時尋常食物トシテ人ヲ食フトハ異ナリト雖

モ其遺傳性ノ偶然再發セルハ愈上古其人種ノ食人人種ナリシテ傍險スル好証左トナス
ニ足ラシカ

第九 情感上人ヲ食フノ場合

人類ハ尋常食欲上又非常饑飢等ノ際食物トシテ人ヲ食フノ外情感上ノ作用ニヨリ又人
ヲ食フ事アリ

情感 Emotion トハ不時ニ發生セル感情ノ義ニシテ獨リ人類ノ之ヲ有スルノミナラズ
動物ト雖モ亦之レアリ譬ヘバ犬ヤ猫ヤ虎ヤ豹ヤノ如キ種族ニアリテ俄カニ其敵ニ居所
ヲ襲ハレ或ハ食物ヲ奪ハレ或ハ愛兒ヲ盜マル、等ノ事アルトキハ不時ニ憤怒ノ態ヲ現
ハシテ咆哮狂奔シテ直チニ其敵ニ飛ビ掛カリ彼ヲ仆サシムルハ已マザルコトアリ此ノ如
キハ全ク情感ノ作用トイフヲ得可ク而シテ其中ニテモ虎ヤ豹ヤノ如キ肉食動物ニアリ
テハ已ニ其敵ヲ斃ス後モ猶ホ厭キ足ラズ其尸体ヲ噬食シテ甘心スルコトアリカハ爾時
ニ敵ヲ食フハ尋常食欲上ヨリ食物トシテ食フニアラテ全ク情感上ノ作用ニヨリ其憤怒
ノ氣ヲ遣ラントテ之ヲ食フ者ナリ

○情感上人ヲ食フノ場合

人類モ亦已ニ情感ヲ有ス以上ハ不時ニ敵ヨリ攻撃ヲ受ケ或ハ己ノ身体ヲ辱メラレ或ハ己ノ居所ヲ襲ハレ或ハ己ノ食物ヲ奪ハレ或ハ己ノ骨肉ヲ害セラル、等其外様々ノ園外ノ攻撃ヲ受クル時ハ憤怒激怒シテ直ニ之ニ抵抗シ其敵ヲ打チ斃サレバ已マザルコトアリ而シテ人類ノ中其性ノ獷悍ナル者ニ至リテハ一層彼ニ凌辱ヲ加ヘテ我が怨ヲ散ゼントテ遂ニ其敵ノ肉ヲ打食フテ甘心スルコトアリ此ノ如キ場合ニ當リテ敵ヲ食フハ尋常食欲上ヨリ食物トシテ食フニアラズ全ク情感上ノ作用ニヨリ其憤怒ノ氣ヲ遣ラントテ之ヲ食フ者トイフベシ

今其例証ヲ左ニ示サン

伊能嘉矩氏ノ臺灣通信(東京人類學會雜誌)ニ曰ク

宜蘭方面ノ内山ノ生蕃ハ酒ヲ人頭ノ口ニ灌ギ入レ咽ノ截リ口ヨリ流レ出ル血酒ヲ器ニ盛リ蕃群共ニ歡飲ストイフ云々

又伊能嘉矩氏ノ臺灣通信(東京人類學會雜誌)ニ曰ク

兄弟共ニ山ヲ出デ若シモ其弟ガ敵人ノ爲メニ殺サル、如キ時ニハ兄ハ怒ト悲トヲ以

テ充サレ其敵手ヲ斃シテ仇ヲ復セズンバ止ミマセヌ乃チ其ノ殺サル、ヲ見タルトキニハ急ニ逐フテ之ニ迫マリ若シモ支那人ノ再ビ逆撃スルヤ巧ミニ斃サレタルマデテ其近クヲ窺ヒ蹴起シテ之ヲ截リツケ斯クテ其頭ヲ截リ又々腹ヲ割キテ肝ヲ食フトイヒマスサレバ其腸ヲ啖ヘント欲ストイフ憤慨ノ語ハ實ニ人類自然ノ普通感情デアルト見エマス

抑モ臺灣ノ生蕃ガ支那人ト兩立セザル仇敵ナルコトハ昔ヨリ著名ニ彼等ハ得意ノ首狩ヲ行ヒ支那人ノ頭骨ヲ集メテ勇ヲ誇ル風アリサレバ上文引ク所ノ最初ノ宜蘭生蕃ノ話モ畢竟其惡サモ惡シト思フ支那人ノ首級ヲ取り得タラバ之ニ酒ヲ澆イデ血腥キ盛心快クニ之ヲ飲ムモノニテ素ヨリ尋常食欲上ヨリ此ノ如クヌレバ味美シトテ飲ムニアラズ正シク情感上ヨリ辱ヲ敵ニ加ヘテ快トスル仕方ニ出ヅルナリ然シテ第二ニ引ク復讐ノ場合支那人ヲ殺シ時トシテ其肉ヲ食フトイフハ全ク情感上ノ作用タル論ズルマデモナシ

次ニ支那人ニ就テ又好例アリ續十八史略三卷明武宗條ニ曰ク

○情感上人ヲ食フノ場合

八月誅劉瑾……三日梟其首。諸被害者人爭取其肉。啖之。
全書明毅宗條ニ曰ク

辛巳十四年正月李自成自鄖陽攻洛陽陷之殺福王常洵……賊殺王爲祖雜厲
肉以號福祿食

次ニ南洋島人ニ就テハ左ノ諸例アリ

「サイリヤム」並「カルマート」William and Calvert 合著ノ「マヒーター」並 Fiji and Fiji-ans ニ曰ク

「フヒーチー」酋長「タノア」Tanoa ハ其敵ナル從弟ノ腕ヲ切り落シ被害者ノ眼前ニ
テ血ヲ飲ミ肉ヲ料理シテ打チ食ヒタリ

「スペインサー」ノ社會學 Sociology ニ曰ク

濠州土人ハ復仇ノ爲メ敵人ノ肉ヲ生ニテ食フ風アリ

「キヤビテンクーク」第三航海記ノ千八百七十九年二月「クーク」布哇群島「オホワイ」島
O'Hee ニテ殺サレシ條ニ曰ク

「クーク」全島ニ上陸シ先キニ盜マレタル船艇恢復ノ人質トシテ島王ヲ軍艦ニ連レ行
カントセシニ我水夫ノ放テル小銃誤テ島中人望多キ一人ノ酋長ニ中タリ死シケレバ
土人蜂起シ「クーク」遂ニ殺害サレタリキ「クーク」已ニ殺サレテ後第二艦長「キング」
King ノ許ヘ土人「クーク」ノ死体ヲ持來ル一同懐カシヤト開キ見レバ一塊ノ肉ノミ
ナリキ後更ニ「クーク」ノ殘骸ヲ求メシニ左右ノ手身首等別々ニ切り離シタルヲ集
メテ持チ來リキ云々……（以上大意ヲ抄譯ス但シ航海記ニハ土人「クーク」ノ尸體
ヲ啖ヒタリトハ明記セザルモ憤怒ノ爲メ其尸體ヲ寸斷シ且ツ其肉ニハ火ニテ炙燒セ
シ痕アリシトイヘハ多分之ヲ食ヒシハ必然ナランカ「クーク」ノ事蹟ハ有名ニシテ且
ツ未開人種ノ情感上動作ヲ示ス好適例ナレバ特ニ之ヲ引用ストイフ）
以上皆情感上ノ作用ニヨリ人類ガ人ヲ食フ例証ニシテ其性質ハ全ク尋常食欲上ヨリ食
物トシテ人ヲ食フ者ハ劇然別種ナルコト素ヨリ論チマザル事トナス
然ルニ人類ガ情感上ノ作用ヨリ敵ニ凌辱ヲ加フルニハ譬ヒ其肉ヲ食フ上ニアリテモ一
概ニ己レガ之ヲ食ハズトモ彼自身ニ之ヲ食ハシメ又他ノ物ニ之ヲ食ハシメ以テ其心快

○情感上人ヲ食フノ場合

○グチ買フ事ヲ得可シ譬ハ先ヅ敵ノ肉ヲ敵自身ニ食ハシメ之ヲ辱カシム例証ハ左ノ如
續十八史畧明成祖ノ條ニ曰ク

殺敵兵部尙書鉄鉉ニ被レ執至京陛見背ニ立廷中ニ正言不屈……燕ニ其肉ニ納ニ鉉口
中ニ令レ啖レ之問曰甘否鉉厲聲曰忠臣孝子肉有ニ何不レ甘遂寸ニ磔之

次ニ他ノ肉ヲ敵ニ食ハシメ敵ヲ辱ム例証ハ左ノ如シ全續十八史略全條ニ曰ク
尙書陳迪割ニ其子鼻令レ食レ之迪死不變

次ニ敵ノ肉ヲ他ノ物ニ食ハシメ敵ヲ辱ム例証左ノ如シ元明史畧至元十九年條ニ曰ク
三月益都千戶王著殺ニ左丞相阿合馬於ニ闕下……帝猶不ニ深知ニ阿合馬姦ニ及レ詢ニ樞密

副使李羅乃盡得ニ其罪……命發レ塚割ニ其棺ニ戮ニ屍於通玄門外縱レ犬食レ之四民聚
觀稱レ快

以上ノ三例ニヨリ考フルニ人類ハ情感上ノ作用ニヨリ己レガ憤怒ノ氣ヲ洩ラシ敵ニ凌辱ヲ加ヘテ快トスル場合ニ在リテ第一ニハ自身直接ニ敵肉ヲ食フテ満足スルモ其少シ

シク感情理解ノ調和スルニ及ビテハ第二ニ間接ニ敵肉ヲ敵自身ニ食ハシメ或ハ他物ニ食ハシム等ニヨリ以テ満足スルニ至ルコトアル如シ

抑モ人類ハ情感ヲ有スル動物ナリサレバ元始ノ時代ニ在リテモ開明ノ時代ニ在リテモ等シク全一ノ事情ニヨリテ全一ノ情感ヲ動かスコトアルハ至當ノ事ナリ但ダ原始ノ時代ニ在リテハ其發動極メテ激急ニシテ且ツ社會風俗ノ殘忍ナルニヨリ遂ニ敵ノ肉ヲ食フテ甘心スルノ風ヲ生ズルニ至ル彼ノ支那ヨリ我日本國ニ在リテ古今ノ言語文章ニ敵ヲ惡ムノ甚シキ彼ノ肉ヲ食マントストイフ譬ハ文章軌範ナル胡濬庵ノ封事ニ

人皆欲食倫之肉
トイヘル如キハ實ニ知ラズ知ラズノ間其原始的天性ヲ言ヒ現ハセル者ナリ「カーライル」嘗テ曰ク

人間ノ争ノ終局問題ハ汝ガ我ヲ殺サンカ我ガ汝ヲ殺サンカノ一問題ナリト
余ハ更ニ一步ヲ進メテ曰ク

人間ノ争ノ終局問題ハ汝ガ我ヲ食ハシム乎我ガ汝ヲ食ハシム乎ノ一問題ナリト

然ルニ社會ノ道德制裁進ムニ及ビテハ人肉ヲ食フ事ハ非倫ノ所爲トシテ漸ク之ヲ絶ツ
モ情感上ノ作用ニヨリ仇ヲ復シテ怨ヲ報ユルノ風ハ依然トシテ後世ニ現存シ古クハ楚
ノ伍子胥ガ父祖ノ仇トテ楚ノ平王ノ屍ヲ掘出シ三百度鞭チシトイヒ比較上近代ニ在リ
テハ英王「チャールズ」二世ガ其父ノ仇トテ「クロンウェル」ノ樞尸ヲ掘出セシトイ
フ如キ死シタル者ニマデ怨ヲ報ユル感情ノ強キ東西一轍ノ談ナリトナス
彼ノ近代歐洲ニ行ハル、決闘 Duel ハ實ニ其名殘ニシテ歴史上ニ在リテハ封建時代ヨ
リ始マルトイフモ精神上ニ在リテハ古クヨリ行ハレ乃チ茲ニ一人アリ或人敵人ヨリ罵
詈凌辱等ヲ受ケ己レガ一身ノ名譽ヲ汚サレテ忍ビ難キ場合ニ至レバ其敵ニ向ヒテ決闘
ヲ挑ミ介添人ヲ立テ、勝負ヲ決スルノ仕方ナリ普ノ「ピスマーク」佛ノ「クレマンソ
ー」ノ如キ政治家モ其政論等ノ衝突ヨリ少壯ノ時分數十回ノ決闘ヲナセシコトハ能ク
人ノ知ル所トナス

我日本ノ封建時代仇討ノ如キ又等シク全一ノ名殘ニシテ其君父等ノ一旦敵人ニ殺害サ
ルトキハ其孤兒遺臣ハ不具戴天ノ仇トテ其敵ヲ尋テ千辛萬苦ノ末遂ニ其敵ヲ打チ果シ

其首級ヲ得タル時ハ彼ノ赤穂復仇ノ如ク亡君ノ墓前ニ備ヘテ其冤魂ノ憤怒ヲ慰セント
スルコトアリ

社會法律ノ進ムニ至リテハ決闘復讐ハ并ニ秩序保持ノ爲メ禁止セラレ遂ニハ生命名譽
等ニ多少ノ損害ヲ受ケ復仇ノ舉ニ出デントスルトキハ損害要償ト稱シテ平和ノ訴訟モ
テ損害金ヲ享受シテ満足スルノ風ヲ生ズルニ至ル人類ガ情感上ノ作用ニヨリ憤怒ノ餘
リ敵ヲ殺シテ肉ヲ食ヒシヨリ損害金ヲ受領シテ甘心シテ已ムニ至ルマデ其進化段階ノ
大ナル實ニ案外ナリトイフベシ

第十 道德上人ヲ食フノ場合

人類ハ尋常食欲上ヨリ人ヲ食ヒ又情感上ノ作用ニヨリ人ヲ食フ事ハ已ニ上文ニ記スル
ガ如シ然ルニ人類ハ此外猶ホ更ニ道德上ノ誘動ニヨリ人ヲ食フ事アリ

人類ガ食人ノ一種ニ道德上ノ食人アリトイヘバ事甚ダ奇怪ナル如キモ元來道德 Moral
トハ人類ガ處世ノ義務ヲ指稱スルモノナレバ人類ガ思慮分別ノ生シタル後ニ於テ已ノ
意思ヲ以テ自由ニ判断テ下シ處世ノ爲メニ必要ナリトテ某ノ行爲ヲナサバ其行爲コソ

(道德上人ヲ食フノ場合)

全ク道德上ノ發動ニ本ツクモノト評スルヲ得可シサテ今人類ガ他ノ人類ヲ食フ上ニ就テモ徒ニ食欲ニ驅ラレテ之ヲ食フ者ハ素ヨリ單ニ食欲上ノ食人ト評スルヲ得可ク徒ニ急激ノ感情ニ驅ラレテ之ヲ食フ者ハ單ニ情感上ノ食人ト評スルヲ得可キモ尋常平和ノ際食欲上ニアラズ情感上ニアラズイト落チ付キタル思慮ヲ以テ或ル處世上善良ナル目的ヲ仕遂ゲン爲メ之ヲ食フ者アラバ是ク道德上ノ食人ト命名セズシテ可ナランヤ

蓋シ第一ノ場合ニ於ケル食欲上ノ食人ハ食欲ニ驅ラレ又飢餓ニ逼マリテ人ヲ食フ者ナレバ其食物トナルベキモノハ何者ヲ撰バズ男ヲ問ハズ女ヲ問ハズ老ヲ問ハズ少ヲ問ハズ苟クモ獲易ウシテ味美ク以テ食欲ヲ滿タスニ足ルト思フ者ハ皆之ヲ食フテ避クルナシトス是レ動物ニ於テモ食物上相互ニ食フ場合ノ常態ナラン又第二ノ場合ニ於ケル情感上ノ食人ハ一時國外ノ刺衝ヨリ起ル感情ニ驅ラレテ人ヲ食フ者ナレバ其食物トナルベキモノハ又必ず全時ニ生シタル讐敵ニシテ其外ノ者ハ何者ト雖モ之ヲ食フノ必要ナシ是レ又動物ニ於テモ情感上敵ヲ食フ場合ノ常態ナラン

獨リ第三ノ場合ニ於ケル道德上ノ食人ハ之ト異ニシテ其誘動ハ最初ヨリ或ル目的ヲ仕

遂グル爲メ略計シテ人ヲ食フ者ナレバ其食物トナルベキモノハ誰人ニテモ構ハズ之ヲ食フトカ誰人ナルカ覺エズ打チ殺シテ之ヲ食フトカイフ如キ無造作ニナルモノニアラズ必ず最初ヨリ其食フ可キ人ハ如何ナル種類ノ人ナルカヲ定メテ少シモ差ハズ之ヲ殺シテ食フナリ故ニ其所爲ハ頗ブル思慮分別ヲ要スルモノニシテ素ヨリ動物等ニ於テ其類例ヲ夢視スル所ニアラズ全ク純然タル人類約以上ノ食人ナリトス

道德上ノ食人ニ凡ソ左ノ四種アリ

甲、自己ノ或ル体力ヲ強メン爲メ人ヲ食フ場合

乙、疾病治療ノ爲トシテ人ヲ食フ場合

丙、厭勝ノ目的ニテ人ヲ食フ場合

丁、葬式上ノ義務トシテ死人ヲ食フ場合

以下章ヲ追フテ其例証ヲ示サン

第十一 自己ノ或ル体力ヲ強メン爲メ人ヲ食フ例

抑モ人類ハ未開ノ時代ニハ十分ナル生理上ノ經驗ヲ有セザルモ覺束ナキ半經驗ニヨリ

○自己ノ或ル体力ヲ強メン爲メ人ヲ食フ例

食物ノ中或ル種類ノモノヲ食ヘハ其中ニ含メル或ル性質ヲ受ケ繼グ可シト信ズルコトアリ譬ヘハ「スペインヤ」ノ社會學ニ曰フ如キ

「アビボーン」人種 Abipone (亞米利加印度人)ハ虎ヲ食ヘハ其勇氣ト強力ヲ獲ルコトヲ信ズ……

「グアラニ」Guarani (南亞米利加「ブラシル」土人)ノ婦女ハ小鳥ヲ食ヘハ生ルハ小兒ガ矮少トナリ「アンタ」蠟 Antaヲ食ヘハ生マルハ小兒ガ鼻大トナルトテ之ヲ食フハ嫌フ風アリ……

開明人種ト雖モ猶ホカ、ル信仰ハ免ル能ハザル事アリテコハ食物ノ事ニアラザルモ「スマイルス」Smiles ノ「セルフヘルプ」Self-Help ニ英醫「チヨンチル」Jenner ガ牛痘接種法即チ今ノ種痘法ヲ始メテ發見セル時ノ事ヲ記シテ曰ク

「チヨンチル」ハ「ロンドン」ニ行キ其法ヲ弘メントセシガ時人ノ冷笑妨害ノ爲メ其志ヲ果サバリキ……當時ノ信仰ニハ牛痘ノ痂チ人間ニ移シテ種ウル時ハ其人間ハ牛ノ如キ顔トナリ聲ハ牛ノ吼聲ニ似ヒ或ハ潰瘍發疹シテ牛ノ如キ角ヲ出スニ至ルナラ

ント評判セリ……(大意)

蓋シ人類ガ其動物ノ痘痂ヲ移シテ直ニ其動物ノ性質ヲ受傳セント信ズルハ實ニ原始的至當ノ信仰トイフヲ得可シ抑人類ガ食物ヲ食フニハ消化トイヘルハ妙用ノ行ハルトイフ事ハ實ニ最近生理學ノ教フル所ニシテ近代ニ至ルマデハ實ニ何人ト雖モ食物ヲ喫シテ直ニ其食物中ノ性質ヲ享受スルヲ得ベシトノ幼稚ナル信仰ハ殆ンド各人之ヲ抱カザルモノナシトイフモ不可ナキニ似タリ

サレバ人類ガ食人ノ風俗ヲ存續スル時代ニ在リテハ又全一ノ事情ヨリ或ハ勇氣アル人ヲ食フ時ハ己モ勇氣アル人トナリ思慮アル人ヲ食ヘハ己レモ思慮アル人トナランカト信ゾ或ハ三人ヲ食ヘハ三人前ノ勇氣ヲ加フルトナシ人五人ヲ食ヘハ五人前ノ力量ヲ得ルトナスコトアル至ラン然シテ風俗益進ニ嗜好愈々盛ナルニ及ビテハ遂ニ當時ノ信仰ニヨリ人ノ精神勇氣ハ膽即チ心臓ニ宿ルトイフヨリ人膽ヲ食ヘハ勇氣ヲ増ス等ノ奇風ヲ生フルニ至ラン此ノ如キ目的ヲ以テ人体又人体ノ一部ヲ食フ者ハ素ヨリ尋常食欲上ヨリ腸胃ヲ満足セシメン爲メ食フニアラズ又尋常情感上ヨリ復仇妄執ノ念ヲ散ゼン

○自己ノ或ル体力ヲ強メン爲メ人ヲ食フ例

爲メ食フニアラス全ク一箇ノ或ル肉体又ハ情感ヨリ以上ノ高尚ナル道德性ノ一目的ヲ
仕遂ゲン爲メ食フ者ニシテ實ニ道德上ノ食人ト評スル至當ナルヲ知ルベシ

先ツ未開人種ニ就テ其例証ヲ求ムレバ「スペインサー」ノ社會學ニ曰ク
「ニューブランド」*N. Zealand* 島人ハ視力ヲ強メン爲メ敵ノ目ヲ食フ……
「メコタ」人 *Dakotak* ハ己レノ勇氣ヲ増サン爲メ敵ノ心臓ヲ食フ

又曰ク

「スタンブリッヤ」*Stambidge* ノ言ニ從ヘバ濠州土人ハ幼弱ノ小兒ヲ殺ス時ハ年長
ノ小兒ニ二人前ノ体力ヲ享ケシメン爲メトテ之ヲ食ハス風アリ云々……

次ニ開明人種ニ就テノ例証ヲ求ムレバ左ノ如シ
歐陽修五代史五十三卷趙思緒傳ニ曰ク

趙思緒魏州人也爲河中部使趙贊牙將……守貞(王守貞)以思緒爲晉昌軍節
度使一居數月思緒食盡殺人而食每稿宴一殺人數百庖宰一如羊豚思緒取其膽以
酒吞之曰食膽至千則勇無敵矣

「ダーリントン」ノ人類學ニ曰ク

「ウイレルソン」ノ言ニヨレバ太平亂 *Fajping Rebellion* (長髮賊)ノ時賊徒上海城ニ
押寄セシニ城内在留ノ英國商人ハ其自分ノ召仕ヒナル支那人ガ賊ノ戰死者ノ心臓ヲ
持チ運ブテ以テ何ノ用ニナスヤテ問ヒシニ勇氣ヲ付クル爲メ食フナリト答ヘシコト
アリント

上文引ク所ノ五代史趙思緒ガ千人分ノ膽ヲ食ヘバ無敵ノ勇ヲ得ルトノ談ハ事稍誇大ノ
如キモ支那日本等ニハ其他尙ホ類似ノ事實多クシテ此ノ如ク千或ハ百等ノ一定ノ整数
ヲ限リテ某ノ目的ヲ仕遂ゲタリトナスハ別シテ東洋ニ多ク行ハレタル習慣ノ如シ譬ヘ
ハ日本ニ在リテ寛永トカノ時分江戸ニテ夜々辻斬ヲナス者アリ幕府之ヲ捕ヘ詰レバ千、
人斬ノ御願中ナリト答ヘ幕府モ處分ニ困シ八丈島ニ流セル事アリ又臺灣ノ生蕃ガ支那
領ノ時分支那人ノ首ヲ捕テサントテ却テ支那人ニ捕ヘラレ斬ラル、トキ憾ミテイヘル
様我ハ一死ヲ畏レザルモ百人ノ首ヲ捕テ志シ今マデ九十餘ヲ獲テ未ダ殘數ヲ滿タ
サズシテ死スヲ悲シトストイヘル等ノ如キ皆一様ノ談柄ナリ

○自己ノ或ル体力ヲ強メン爲メ人ヲ食フ例

抑人類が其人ヲ殺シ其体ヲ食フテ其人ノ性質ヲ受ケ繼グヲ得ベシトハ最モ原始的思想
 ニシテ未開ノ時代ニハ隨分諸人種ノ間ニ行ハレタル風俗ナリシナラン然ルニ人文ノ發
 達ヨリ嗜好ノ推移ニ及ビテハ遂ニ全ク其人ノ肉ヲ食ハザルモ其人ノ血液ヲ飲ミタル位
 ニテモ尙ホ其性質ヲ享受スルヲ得ル位ノ事ヲ信ゼン食人風俗ノ絶エタル時代ニ及ベハ
 素ヨリ其人ヲ食フノ必要ハ少シモナク唯其人ノ食フ食物ヲ食フ位ニテ覺束ナク其性
 質ヲ享受スル事ヲ信ゼン遂ニハ時勢ノ變風俗ノ移ルニ至リテハ偉人勝利者等ノ名ヲ取
 リ己ニ名ツケ以テ其武勇ヲ受繼ガンコトヲ期スルノ風ヲ生ズルニ至ル彼ノ支那ニ在リ
 テ叔孫得臣ガ敵長狄僑如ニ克チテ其子ニ僑如ノ名ヲ命シ木下秀吉ガ丹羽長秀柴田勝家
 ノ武勇ヲ慕ヒ羽柴ノ姓ヲ名乗リシ如シ是亦道德上食人風俗ノ一種ガ長久ナル進化ノ結
 果ト評スベキカ

第十二 疾病治療ノ爲メ人ヲ食フ例

人類已ニ或ル体力ヲ強メン爲メ人ヲ食フ風俗アル時ハ又一方ヨリ人ヲ食フ時ハ或ル体
 カヲ強メ得ルノ信仰ヲ有スベシサレバ風俗ノ進ムニ隨ヒテハ遂ニ未開時代普通人ノ信

ズル如ク人膽ヲ食ヘバ勇氣ヲ増スナドノ信仰盛トナリ人膽等ハ恰モ一種ノ興奮劑ノ如
 ク思惟セラレ或ハ人体ノ一部又ハ生血ノ如キモ之ヲ食ヒ之ヲ吸フ時ハ不治ノ病症モ能
 ク奇代ニ全治スルコトヲ得ルカノ如キ信仰ヲ有シ遂ニ此ノ如キ需用ニ驅ラレテ人ヲ殺
 シテ之ヲ食フニ至ルコトアリカ、ル場合ニ人ヲ食フハ又尋常食欲上又憤怒上ヨリ人ヲ
 食フト異ニ全ク一箇ノ或ル高尚ナル道德上ノ目的ヲ仕遂グン爲メ人ヲ食フモノナレバ
 之ヲ道德上食人ノ一ト評スベシ

今左ニ其例証ヲ舉ゲン尤モカ、ル信仰ハ支那日本等ニ多ク行ハル、事ナレバ其例証モ
 先ヅ自ラ其等ノ國々ニ取ルト知ルベシ
 續十八史略二卷明太祖ノ條ニ曰ク

甲戌二十七年九月青州日照氏江伯兒以母病割脇肉食之不愈禱於岱岳祠誓云
 母病愈則殺子以祀已而母病愈竟殺其三才子祭之有司以聞上怒曰父子天倫至重命
 賊殺其子絕滅倫理亟捕治之勿使傷壞風化遂逮伯兒杖一百謫戍海南

明治三十年十月十二日日本新聞ニ上海申報ヲ引イテ曰ク

○疾病治療ノ爲メ人ヲ食フ例

食 人 風 俗 考

桐城人方雨斌ナルモノ、妻王氏ハ名門ノ女ナリ夫一年競馬ニヨリ跌傷シ癒ユト雖モ已ニ暗疾ヲ生ズ氏夫ノ病毎ニ湯藥ヲ侍奉シ晝夜怠ラズ夫復々時疫ニカ、リ日ニ沉重ヲ見ル藥石靈ナシ氏心焦急人ナキ所ニ於テ股ヲ割キ湯ニ煎シテ以テ進ム而カモ疾瘳育ニ入り竟ニ効ヲ奏セズ夫命ヲ殞ス氏痛テ生ヲ欲セズ鄰人慰諭ノ際忽チ其染衣ヲ見愕然始メテ其股ヲ割クヲ察視ス云々

明治三十年十月十七日東京日々新聞ニ又申報ヲ轉載譯出シテ曰ク

清國杭州ノ某市街ニ潘小六トイヘルモノアリ今年三十ノ血氣盛ナル男ナルガ年來八百屋ヲ業トシ一人ノ老母ニ孝養ヲ盡クスナキ此上ナキ樂トシ居ルガ老母ハ年七十ヲモ越エタル故終始病床ニ打臥シアルニグ……潘ハ一夜深更ニ及ビ井水ニテ身ヲ淨メ祈願シテ云フ様古人ハ股ヲ割キテ親ヲ救ヒシト聞ク我トテ何條至誠ノ天地ニ通セザル可キカハト利刀ヲ以テ左ノ臂肉ヲ切り取り之ヲ烹テ老母ニ進メタルニ老母ハ此クト知ラズ件ノ肉ヲ一口喰ヒタルマ、哀レヤ其儘病死シタレバ潘ハ身モ世モアラマ計リニ嘆キ悲ミ是ヨリ以來ハ痴ノ如クナレリ云々……

食 人 風 俗 考

抑モ支那等ニ在リテハ昔シヨリ親ノ病ヲ救ハントテ肉ヲ割キ血ヲ刺シテ之ニ食ハシメ或ハ飲マシメ以テ献身的ノ孝行トナシ道德上美談トシテ褒メ立ツル國柄ナレバ割合近代ニ至リテモ其習ヲ絶ズザルコト此ノ如キアルハ怪ムニ足ラズ否ナ其國ノ烈女傳孝子傳等ニカ、ル行爲ヲ鉅々採録シテ教育ノ模範トナシ永ク後世ニ傳フル以上ハ知ラズ知ラズノ間ニ國民猶ホ其感化ヲ受ケ未來ト雖モ猶ホカ、ル風俗ノ實行ヲ見ルハ必ズ期ス可キコトナラン

又我が日本ニ在リテモ等シク全一ノ習慣流行シ殊ニ昔シヨリ誰人ノイフトナク人ノ生肝ヲ食ヘバ某ノ病ヲ治ス可シトイヒ人ノ生血ヲ飲メバ某ノ病ヲ愈スベシナドト信仰ハ尤モ廣ク國民ノ間ニ行ハレ之ニ關スル古來ノ奇談珍話モ少ナカラズ近古封建ノ世芝居院本等ノ盛ナリシ際ニハ多ク其奇談ヲ院本中ニ雜ヘ込ミ今ニ國民ノ耳目ニ上リ人口ニ膾炙セル者少ナカラズ今余ノ搜索セルモノ左ノ三條アリ

山田案山子作ノ生寫朝顔日記ノ中戎屋徳右衛門ガ割腹ノ時關助ニ語レル言葉ニ曰ク
最前駒澤様ノ物語唐土傳來ノ目藥甲子ノ年ノ男子ノ生血にて服する時はいか成敗病

(疾病治療 爲人ナ食ノ例)

も即坐に平癒の事某甲子の生れなれば我血汐をもつて件の薬を調合し早々な
へ御進めなされ……

竹田和泉近松半二合作ノ奥州安達ガ原ノ中鬼婆岩手ガ生駒之助ノ妻戀絹ヲ殺シ胎内ノ
兒ヲ取ル條ニ曰ク

如何なれば此君（後朱雀院の御弟君環之宮の事）我國へ下向の時より物いひ給ふ事
叶はず一天の君としてかゝる難病世の嘲りとやせんかくやと醫術さまく昔漢の世
に有る人此病を煩ふ名付けて止聲病といふ其頃着婆が秘密の宗法孕める女の腹を裁
ち胎内の子の血汐を用ひて立所に平癒す我是を行はんと普ねく産婦を尋ねる所に今
日思はず汝が女房天子の御役に立ちたることを類ひ希なる身の冥加……

作者未詳の攝州合邦社ノ俊徳丸ノ母玉手御前自害シテ生血ヲ俊徳丸ニ飲マシム條ニ曰
ク

典藥法眼に様子を打明け毒酒の調合頼じ折から本腹の治法精しく尋ねしに胎内より
受けたる癩病ならず毒にて發する病なれば寅の年寅の月寅の日寅の刻誕生したる女

の肝の臟の生血を取り毒酒を盛りたる器にて病人に與へる時は即坐に本服疑ひなし
と聞きたる其時の嬉しさ……

蓋シ芝居淨瑠璃ノ如キハ尤モ中等以下ノ人民ニ（日本ニアリテハ）感化ヲ與ル大ナル
モノコシテ教育ナキモノト雖モ多クハ其曲中ノ孝子貞女ヲ以テ其行爲ノ好摸範トセザ
ルナシサレバ我日本ニ在リテモカ、ル一種ノ教育道存在スル限リハ或ハ冥々ノ間ニ人
ノ生肝血ヲ父ニ供シ人ノ生血ヲ母ニ供シ以テ其病ヲ愈ヤシ孝名ヲ永ク世間ニ傳ヘント
思フ者今ニ猶ホ絶エザルコトモ是レアラン彼ノ明治廿五年大分縣人河野儀平ノ事蹟ノ
如キ其一例ナリ當時ノ新聞紙ノ傳フル所ニヨレバ曰ク

明治廿五年大分縣速見郡杵築村人河野儀平ナル者母ノ眼病ヲ救ハント欲セシニ人ノ
生肝ノ黒燒ヲ食ヘバ其病愈ユトノ事ヲ聞キ出又庖丁ニテ妻ヲ殺シ其生膽ヲ取り將ニ
母ニ進メントシ事發覺シ全年九月五日大分裁判所ニテ重禁錮九年ノ刑ニ處セラレタ
リ云々（付記明治卅年ノ新聞紙ニヨレバ全人ハ全年一月國喪ノ際特典ヲ被フリ減刑
セラレ輕懲役六年九箇月トナリ全十一月假出獄ヲ許サレタリト）

○疾病治療ノ爲メ人ヲ食フ例

カ、ル道理ニ本イテ人体ノ一部ヲ食フハ素ヨリ其原因食欲上情感上ヨリ人ヲ食フトハ大差アリテ純然タル道德上ノ誘動ニヨリ人ヲ食フ者ト謂フ可シ蓋シ食人ノ風習上ニ於テ最モ德義的ノ舉動ニ出ツルモノハ實ニ此一種ヲ推スベキニ似タリ

第十三 厭勝ノ目的ニテ人ヲ食フ例

人類已ニ或ル疾病治療ノ爲メ人ヲ食フ風俗アリトスル時ハ又一方ヨリ反對ニ人ヲ食フ時ハ或ル疾病ヲ治療スル効アルコトヲ信ゼンサレバ風俗ノ變ズルニ隨ヒ遂ニハ人ヲ食フ時ハ疾病治療ノ外何事カ人事上ニ在リテ幸運ナルコトアリトカ或ハ有福ナルコトアリトカ其ノ他種々ノ異常ナル通力ヲ有スルコトヲ得ルナラント信ズルニ至ランサレバ是ヨリ又一步ヲ轉ジテ單ニ人ヲ食ヘバ某事ノ厭勝トナルベキヲ信ジテ人ヲ食フニ至ル事モ之レアルベシカ、ル場合ニ人ヲ食フハ又尋常食欲上或ハ憤怒上ヨリ人ヲ食フト異ニ全ク一箇ノ或ル道德的ノ目的ヲ任遂ゲン爲メ人ヲ食フモノナレバ又之ヲ道德上食人ノ一ト評ス可シ

今左ニ其例証ヲ舉ゲン庶ノ段成式ノ四 組ニ

李廓在穎州獲光火賊七人前後殺人必食其肉獄具廓問食肉之故其首言某受二教於巨盜食人肉者夜入人家必昏沉或有厭鬼不寤者故不得不食……
コハ盜賊ノ教ニ人肉ヲ食フ時ハ人家ニ忍ビ入りタル節家人等其氣ニ壓サレ眠靜マリテ寤メザレバ厭勝ノ爲メ之ヲ食フトイヘル談ナリ
カ、ル例証ハ割合希少ナルモ此一例ダケニテモ人類ハ道德上一種厭勝ノ爲メ人ヲ食フ事アルヲ十分ニ立論スルヲ得ベシ

第十四 葬式上ノ義務トシテ死人ヲ食フ例

人類ハ原始ノ時代ニ當リ食物トシテ死人ヲ食フ事アリト雖モ追々食物ノ供給モ十分トナリ所謂衣食住而知ニ禮節ノ時代ニ及ベバカ、ル風俗モ漸ク漸ク跡ヲ絶ツニ至ラン然モ死者ノ遺体ヲ空シク腐敗ニ委ヌルハ却テ又別種ノ點ヨリ不仁或ハ不本意ノ事ナリトシ葬式ノ一手段トシテ遺族榮マリテ其肉體ヲ食フニ至ル事アリ蓋シカ、ル場合ニ人ヲ食フハ全ク食欲上ヨリ味美キ爲メ食フトイフコトハアラテ葬式上ノ一義務トシテ食欲ハ倍置キ味ノ惡キモ隨テ食フモノナラバ高尚ナル道德上ノ誘動ニ本ツク食人ナリト評

葬式上ノ義務トシテ死人ヲ

スルヲ得可シ今左ニ其例証ヲ擧ゲン

「スペインヤ」ノ社會學ニ曰ク

「クカマ」人種 *Cucama* (中部亞米利加ユカタン人種) ハ人ノ死スル時ハ死人ノ遺族集マリテ其尸体ノ脂肪筋肉ヲ分チ適宜ニ之ヲ燒キ或ハ糞ヲ食フ風俗アリ

又全書ニ曰ク

「アラワク」人種 *Arawak* (南亞米利加印度人ハ死者ニ對スル最上ノ尊敬ヲ彰ハスニハ其遺骨ノ粉末ヲ水ニ和シテ飲ムトイフ

「ダーリシク」ノ人類學ニ曰ク

西藏人ハ死者ノ遺族集マリテ死人ノ肉ヲ食ヒ葬禮ヲナシ又死人ノ頭骨ヲ取リテ杯器トナスノ風アリ

「ヒロドタス」ノ埃及並「サイシヤ」*Egypt and Sycilia* ニ曰ク

中央亞細亞ノ一人種ハ葬式會飲ノ時死者ノ遺体ヲ食ヒ頭骨ハ金ヲ塗リテ永久保存スル風アリ

之ヲ要スルニ人類ハ死者ノアロタル時葬式上ノ一義務トシテ遺族集マリテ其尸体ヲ食フ風俗アルコト此ノ如シサレド食人ノ俗已ニ絶ユルニ及ビテハ或ハ死者アリトスルモ其尸体ヲ食フコトヲナサズ唯死者ノ遺髮若クハ遺物ヲ會葬者ニ別チ與ヘ以テ葬式ノ儀トナスコトモコレアラシク要スルニ此ノ如キ場合ニ際スル食人ハ全ク徳義ノ不規則ニ發達シタル結果ニヨリ起コレル風習ナレバ之ヲ道德上ノ食人ト名付ケルモ敢テ唐突ニアラザルベシ

第十五 結論

食人風俗ノ根源進化上文論ズル所ノ如シ猶ホ此外異種ノ食人ノ行ハル、事はアラシクモ先ツ大体上須要ナルモノハ大抵概括シテ洩ラサルヲ期セリ
抑モ人類ガ人ヲ食フトイヘル事ハ突如トシテ之ヲ聞クトキハ頗ブル殘忍不仁ノ如キ事亦能ク人情ノ原始ニ溯ホルトキハ尋常殺人ノ一步ヲ進メタルモノニシテ未開ノ時代ニアリテハ普通ノ出來事トイフヲ得ベク少シモ驚クニ足ラザル事トス然シテ今日開明ノ社會上ニ錯綜シテ行ハル、諸般儀式習慣等ニシテ昔時食人ノ風俗行ハレシヨリ進化

シテ是ニ至レルモノ亦實ニ少ナカラズ其要領ハ上文各章ニ就キ思ヒ出ツル儘引用シテ記載セシト雖モ猶ホ便宜ノ爲メ茲ニ再ビ食人ノ各種類ヲ分載シ各其各項ノ下ニ進化ノ有様ヲ記シ聊カ一覽ノ便ニ供セント欲ス

第一尋常食欲上人ヲ食フ場合ヲ分テ左ノ四種トナス

甲、小兒婦人ヲ食フ場合

乙、病者老人ヲ食フ場合

丙、死者ヲ食フ場合

丁、壯者又敵人ヲ食フ場合

第二小兒婦人ヲ食フ場合ハ子孫ノ系統若クハ部落ノ繁殖ヲ妨グヨリ次第ニ其風ヲ減ズ但シ猶ホ淘汰ノ必要アル時ハ羸弱ニシテ將來無用ナル小兒ヲ殺シ所謂墮胎或ハ遺兒ノ風ヲ生ズ德義ノ制裁進メバ育兒院ノ如キモノ出來テ其等ノ孤兒ヲ養フニ至ル但シ女子ハ比較上男子ノ玩弄物又財産的ノモノナレバ割合早クヨリ其犠牲ヲ免ル遂ニ世ノ進歩ニ從フテハ男子ト對等ノ地ヲ得ルニ至ル

食 人 風 俗 考

食 人 風 俗 考

第三病者老人ヲ食フ場合ハ人口ノ減少若クハ部落ノ生産力ニ關係薄キヲ以テ尤モ經濟的ノ食人ナリ但シ社會道德ノ進ミテ食人ノ風絶ユル時ハ淘汰ノ行ハル、際ハ唯病者老人ヲ遺棄スルニ止マル病者ノ爲ニハ後施藥院慈善病院ノ如キ者出來キ老人ノ爲ニハ生ナガラ世事ニ關係セザル所謂隱居ノ習慣ヲ生ズルニ至ル

第四死人ヲ食フ場合ハ亦病者老人ニ勝リ最モ經濟的ノ食人ナルモ亦最モ下等ノ食人ナレバ他ノ食物十分トナル以上ハ速カニ其風ヲ絶ツベシ

第五壯者又敵人ヲ食フ場合ハ生存競争ノ最モ激烈ナル時ニシテ食人風俗ノ最モ絶頂ニ達セル場合トナス但シ社會ノ進歩スルニ及ビテハ敵ノ捕虜若クハ降參者ヲ食物トナサズシテ奴隸ニ使用シ又其後ニ及ビテハ奴隸ヲ引上ケ良民トナシ遂ニ今日ニ至リテハ戰時ノ俘虜ハ優遇シテ平和ノ後無事ニ放還スルヲ名譽ノ事トナスニ至ル

第六飢饉等非常ノ際人ヲ食フ場合ハ元來境遇ノ已ムテ得ザルモノナレバ未開人ハ素ヨリ開明人ト雖モ免ル能ハザルモノトス而シテ其食物ノ種類モ急迫ノ場合ナラバ男女老幼撰ブニ違ナク手ニ入り次第之ヲ食フトナス

第七情感上人ヲ食フ場合ハ全ク敵ニ凌辱ヲ受ケタル怨ヲ晴サントテ人ヲ食フモノナレ

ハ必ズ其敵ヲ攻撃シテ食フベシ然シテ其復仇ノ手段ニ四種アリ

甲ハ敵ノ肉ヲ己レ自身ニ食フ

乙ハ敵ノ肉ヲ敵自身ニ食ハシム

丙ハ或ル關係アル他ノ者ノ肉ヲ敵自身ニ食ハシム

丁ハ敵ノ肉ヲ他ノ動物又人類ニ食ハシム

德義ノ制裁進ミ食人風俗ノ絶エルニ及ビテ情感上恨ヲ敵ニ報ユルニハ歐洲ニテハ決

闘日本ニテハ仇討等トナリ遂ニハ法律ノ進歩ニ及ビテハ是又禁セラレ平和ナル名譽

恢復或ハ損害要償ノ訴訟手段ヲ生ズルニ至ル

第八道德上ノ食人ノ場合ニ左ノ四種アリ

甲、自己ノ或ル体力ヲ強メン爲メ人ヲ食フ場合

乙、疾病治療ノ爲トシテ人ヲ食フ場合

丙、厭勝ノ目的ニテ人ヲ食フ場合

丁、葬式上ノ義務トシテ死人ヲ食フ場合

第九自己ノ或ル体力ヲ強メン爲メ人ヲ食フ場合ハ人ヲ食ヘバ他人ノ性質ヲ受ケ繼ギ得

ベシト信ズルヨリ起レルモノナルモ風俗ノ次第ニ移ルニ及ビテハ他人ヲ食ハザルモ

他人ノ一部ヲ所有スルトキハ其性質ヲ受ケ續ギ得ベシトナシ或ハ其人ノ姓名ヲ切り

取リ己ニ名付ル事ノ風ヲ生ズルニ至ル

第十疾病治療ノ爲メ人ヲ食フ場合ハ最モ道德上普通ノ風俗ニシテ殊ニ東方支那日本等

ニハ流行シ今ニ一種ノ風教上其涵養ヲ絶タザレバ續々其實事ノ行ハル、ヲ見ルナラ

シ

第十一厭勝ノ目的ニテ人ヲ食フ場合ハ割合希少ニシテ魔法使ヒ等ノ一種ハコレヨリ變

セルナルベシ

第十二葬式上ノ義務トシテ死人ヲ食フ場合ハ是レ道德上普通ノ風俗ニシテ社會ノ進歩

ニ及ビテハ死者ノ遺体一部若クハ遺産ノ一種ヲ親族關係者ニ頒チ與ヘ其義ヲ濟マス

ニ至ルベシ

之ヲ要スルニ人類ガ食人ノ風俗ニツイテハ其種類ニ三大別アリテ然シテ細カニ其性質
關係ヲ調査スル時ハ孰レモ時代ニ從テ進化ノ痕歴々徴スベシトナス蓋シ人類ガ動物
ヨリ進化シテ其殘忍狎寧ナル天性ニ任セテ全類互ニ相食フノ風ヲナセルハ實ニ長久ノ
間ニシテ今日地球上ノ人類ハ必ズ前後一度ハ此時代ヲ經過シタルナルベク而シテ是ヨ
リ無數ノ年代ト無數ノ變遷ヲ閱シテ又現今ノ或ル者ハ智識道德ノ已ニ進ミタル開明ノ
人類トナルニ至ルマデ其經過ノ複雜ニシテ進歩ノ面白キ實ニ絶好ノ社會學人類ノ好材
料ト謂ツ可キナリ

附 錄

人 体 犧 牲 考

第 十 六 緒 論

食人風俗ノ根源進化ニ就テハ已ニ上文ニ其意見ヲ述ベ盡クセシガ食人風俗ノ絶エタル
後ニ於テハ人体犠牲ノ風俗之ニ亞テ起ルベキハ自然進化ノ順序ナレバ今又稿ヲ續テ其
狀況ノ概略ヲ述ベント欲ス

抑野蠻未開ノ原人ハ生死ニ關スル區別ノ觀念至テ幼稚ニシテ或ハ影ヲ以テ身体ノ一部
分トナシ反響ヲ以テ又同ク身体ノ一部分トナシ氣絶悶絶睡眠ナドハ一時其一部分ノ
行テ見ル所ノ人又物トナシ遂ニ人類ノ身体ハ見ル可キ顯体ノモノト見ル可カテザル虚
体ノモノトノ二種ヨリ由リテ成リ立ツカノ如ク信テ死亡ハ其一部分ノ出テ去リノ長キ
モノトナシ死体モ生活ヲ失ヒタルモノニアラザレバ程善ク保存ヲ計レバ何ツカハ睡眠
ヲ醒ムル如ク一部分ノ飛遊セル即チ魂魄ノ如キモノ歸來シテ生活ニ復スルコトアラン

トスルニ至レリ

蓋シ此ノ如キハ未開人種ガ死ニ關スル一般ノ觀念ニシテ彼ノ諸國至ル所ノ人種ガ死者アル時ハ之ヲ取扱フ生者ノ如クシ食物其他日用雜品ヲ墓前ニ捧ケテ其需用ニ供シ葬式、祭禮、犠牲、殉死等ノ盛大ナル風俗ヲ來スルニ至ルハ實ニ此信仰ニ本ヅク爲メナラシ然シテ特ニ食人ノ風俗ヲ存セル人種ニ在リテハ食物トシテ物品ヲ供スル中人体犠牲ヲ行フ場合モ亦夥多ニシテ遂ニハ各人種ノ信仰習慣ノ異ナルニ從フテ其習慣上ヨリモ種々ノ變遷セル風俗ヲ來スニ至ルハ自然ニ免レザルコトナルベシ今左ニ篇章ヲ分ケタル順序ニヨリ人体犠牲ニ關スル進化ノ現狀ヲ述ベシ

- 甲 死者ニ食物トシテ人肉ヲ供スル場合
- 乙 神前ニ食物トシテ人肉ヲ供スル場合
- 丙 死者又神前ニ怨ヲ晴サシメメ人肉ヲ供スル場合
- 丁 誠心ヲ表スル爲メ人体犠牲ヲ行フ場合
- 戊 人体犠牲ト殉死ノ區別

己 結論

第十七 死者ニ食物トシテ人肉ヲ供スル場合

未開人種ハ生死ノ限界ニ關スル判別力極メテ薄弱ナルモノニシテ或ハ死ヲ以テ一時ノ事トナシ或ハ死ヲ以テ睡眠ノ一種トナシスベテ死者ヲ扱フ生者ニ異ナラザルコトアリサレバ一旦死者アリタルトキモ素ヨリ其待遇ハ生者ト全一ニシテ之ニ談話ヲ試ミ或ハ要務ヲ頼ミ或ハ食物ヲ給シ或ハ兵器ヲ供シ其外萬端ノ取扱スベテ生時ニ異ナラズ且其尸体モ素ヨリ聊ノ毀傷ナク保存センコト計リ彼ノ著名ナル埃及ノ「ミイラ」 Mummy 保存ノ如キ風俗ヲ生ズルニ至ルナリ今先ヅ左ニ未開人種ガ死者ヲ取扱フ生者ノ如クスルトイフ例証ノ若干ヲ舉ゲン

「ハリオット」 Heriot ノ「カナダ」旅行記 Travels through the Canada ニ曰ク
「カナダ」ノ米國印度人種ナル「キヤリブ」 Carib 種族ハ死者ニ向ヒ何故此世ヨリ去リシヤノ理由ヲ問フコトアリ云々

「スペインサー」ノ社會學ニ曰ク

○附録 死者ニ食物トシテ人肉ヲ供スル場合

亞非利加黃金海濱 Gold Coast ノ部落ニ在リテハ死者アル時ハ生者ヨリ其死セル理
由ヲ問フ事アリ

又「エスキモー」土人モ死者アル時ハ食物毛皮等ヲ墓上ニ持チ行キ茲ニ食物モアリ又
温被モアリナドトイフコトヲ死人ニ語ルナリ

人類已ニ生死ノ限界此ノ如キ分明ナリ難キ時ハ死者ニ對シテ飲食ヲ手向クルモ亦同一
ノ事情ニヨリ已ニ難キコトナラン

「スベサー」ノ社會學ニ曰ク

蘭人「コルフ」P.O.F.ノ旅航記ニヨレバ南洋群島中「アール」島 A. M. N. ノ土人ナル「バ
プア」人種ハ人死スル時ハ食物ヲ進メ若シ食ハザル時ハ強テ口中ニ押込ミ遂ニハ口
中ヨリ溢レ出テ肢体ヨリ床上ニ蒔ケ散サルニ至ルコトアリ云々……

「エリス」Ellis ノ「ボルネオ」探險記 Polynesian Reserches ニ曰ク

太平洋「タヒチ」島人種 Tahitian ハ若シ其中有位有力ノ人死スル時ハ僧侶若シクハ
全類ノ者一人其尸体ニ侍シ一日ノ間屢々口中ニ食物ヲ詰ムル習慣アリ云々

サレバ此ノ如キ人種ニシテ食人ノ風俗ヲ有スル人種ナラシメバ其死者ニ對シテ食物ヲ
供給スル中又人肉ヲ食ハシメシハ素ヨリ論ズルマデモナキコトナルベシ死後ニ人体又
ハ人体ノ一部分ヲ供スル所謂人体犠牲ノ風俗ハ此ノ如クシテ初メテ原始ノ端緒ヲ開ケ
リトイフベシ

第十八 神前ニ食物トシテ人肉ヲ供スル場合

未開人ハ已ニ尸体ヲ以テ生活アルモノトスレバ譬ヒ尸体ハ埋メラル、後ト雖モ猶ホ生
活ヲ有スルモノトナシ其食物並雜品ヲ棺中又ハ墓上ニ備ヘ付クルハ又自然ニ起コルベ
キ第二ノ場合ナリ「スベサー」ノ社會學ニ曰ク

古代「ペリユー」國人ハ人ヲ葬ル後時々之ヲ發キ食物衣服ヲ新給スル習アリ……
或ハ時トシテ尸体ヲ引キ出シ生時ノ如ク坐列ヲ作りテ居ラシムコトアリ……
又曰ク

「アイロクオイ」印度人 Hopnoi ハ死者ノ魂ガ食物調理ヲナシ得ル爲メ夜間墓上ニ
火ヲ焚キ置クノ習アリ……

○神前ニ食物トシテ人肉ヲ供スル場合

此ノ如キ信仰行ハル、人種ニシテ若シ食人ノ風俗ヲ保テルノ人種ナラシメバ其棺中ニ
上ニ供スル食物中ニモ亦人肉ノ一片ヲ存スルハ尤モ當然ノ事ナルベシ
己ニシテ年代ノ進ムニ於テ墓上ニ營ミタル物置ノ小屋ヤ或ハ死体ニ與ヘテ生時
ノ住家ヤハ漸次ノ變遷ニヨリテ祠堂トナリ遂ニ尋常普通ノ死者ハ名モ消エ傳記モ亡ビ
タルニ獨リ酋長帝王有力者ノ墓ハ依然トシテ現存シ殊ニ其神靈ハ古キニ隨フテ次第
威力アル者ノ如ク思ハレ其祭日紀念日等ハ古風ノ儘ノ儀式或ハ特別盛大ノ典禮ヲ以テ
祭ラル、事アラシカ、ル場合ニ最初ヨリ其食人ノ風俗ヲ存セシ者ニ至リテハ必ズ人体
ヲ以テ食物的犠牲トシテ神前ニ捧グルノ風ヲ存スルハ實ニ至當ニシテ免レガタキコト
ナルベシ

「ターナー」[Turner]ノ百年前「サモア」Samoa, a Hundred years ago 云々

「サモア」島中「サバイ」小島 Savay ノ一村落ニ「サモ」Samo トイフ食人ノ神アリ
普通ノ人間ノ如ク体欲ヲ持ツモノトセラレ其請求ノアル時ハ人肉ヲ供セラル此神ノ
權力ハ近傍ノ數村落ニ擴ガリ子孫今ニ生存ス……

「スペインサー」ノ社會學ニ曰ク

「クラビセロ」Cravigero ノ書ニ從ヘバ「メキシコ」人種ハ葬時ニ奴隸ヲ殺シ神前ニ
捕虜ヲ殺シ犠牲トナス習慣アリト然ルニ葬時ノ犠牲ハ後世ニ至リテハ食物トシテ供
スルニハアラザリシ如キモ最初ハ必ズ左様ナリシナランハ神前ノ犠牲ハ死者ノ心臓
ヲ引キ出シ偶像ノ口ニ詰メ込ム習アルニヨリ想ヒ合ハサルナリ……

「キヤビテンク」第三航海記千七百七十九年八月ノ條ニ曰ク

「オタハイテ」島 Ochalaiten (太平洋「フレンジー」島北ニ在リ)ニテハ酋長供物ヲ
用ユル時ハ其手下ヲ他部落ニ遣ハシ突然犠牲トナルベキ人ヲ襲ヒ棍棒又石ニテ打殺
シ之ヲ用ユ「オタハイテ」ニ於テハ一回ノ儀式ニ一人ノ犠牲ト見エシニ或ル祭場ニ至
リ見レバ犠牲ノ頭骨四十九アリ然シテ一々未ダ腐敗ノ痕ナカリシハ一時ニ此ノ如キ
多數ノ犠牲ヲ用ユルコトモアルト思ハレタリキ……

蓋シ靈魂不死ヲ信ズル人種ニシテ食人ノ風俗ヲ絶ダザルモノニアリテハ其部落ノ神ヲ
祭ルニ人体犠牲ヲ行フハ尤モ普通當然ノ理ニシテ其他許多ノ例証アリト雖モ一々之ヲ

○神前ニ食物トシテ人肉ヲ供スル場合

引用シテ証明スル必要モアラザル程ナリ

第十九 死者又神前ニ怨ヲ晴サシメン爲メ人肉ヲ供スル場合

人類ハ已ニ前篇食人風俗考中ニ論セシ如ク情感上ノ作用ニヨリ憤怒ノ餘リ遺恨ヲ晴ラサシメン爲メナドノ道理ニヨリ敵人ノ肉ヲ食フ事アリサレバ若シ一人アリテ一個人互ヒノ争鬪カ又ハ部落相互ヒノ争鬪カニヨリ不幸ニシテ打死シ若シクハ殺害サレタラハ其子孫兄弟朋友若クハ全部落ノ者ナドガ復仇ノ爲メニ其敵ヲ殺シ遂ニハ其肉ヲ死者ノ靈前ニ供ヘ怨ヲ修メン爲メ之ヲ食ハシメントスルコトアリヌベシ特ニ其死者ガ一部落ノ酋長有力者又ハ帝王等ナリシナラハ別シテ夥多ノ敵人又ハ俘虜等ヲ殺シ其肉ヲ供シテ其怨恨ヲ慰スルヲアラン彼ノ「アフリカ」又ハ太平洋群島ノ土人等ガ往々酋長等ノ葬式ニ敵ノ俘虜ヲ犠牲トシ之ニ供シ遂ニハ式場ニ於テ之ヲ屠リテ其肉ヲ靈前ニ供スル等ノ俗アルハ其例夥多ニシテ探險者ノ紀行中殆ド至ル所ニ記載セザルコトナキ程ノ事實ナリ此ノ如キハ全ク食人風俗ノ行ハレシヨリ情感的ノ人休犠牲ノ引續イテ起コリシモノニシ

テ尋常食欲ヲ補ヘン爲メ食物トシテ死者ニ人肉ヲ供スルコトハアラデ怨ヲ晴サン爲メ間接ノ食物トシテ之ヲ死者ニ供スルモノトイフヲ得ベシ

然ルニ前章ニモ已ニ述ベシ如ク死者ニ食物ヲ備フル風ハ漸次ノ進化ニヨリ死者ノ墓上ニ備フル事トナリ又久シキヲ經テ死者ノ靈威方チ有シテ神トナリ祭ラレニ及ビテハ遂ニ之ヲ神社殿堂ニ備フルニ至ル然ルニ死者ノ中ニテモ尋常ノ打死若クハ鬪死ニテ死セラル者ハ暫クシテ其姓名ヲ失ヒ墓所ハ廢シテ人ノ記憶ニ留マルコトナキモ酋長帝王有力者又ハ非常ノ勇氣ヲ現ヘシ打死セル人或ハ非常ノ慘待ヲ蒙フリ横死セルナドニ至リテハ數多ノ歲月ヲ經テモ記憶新ニ口傳相傳ヘテ其事蹟ヲ存シ食人ノ風俗アラン限リハ其記念日又ハ祭日等ニハ敵ノ俘虜等ヲ犠牲トシテ其冤靈ヲ慰スルコトアリヌベシ

今人類ガ情感上怨ヲ晴サン目的ニテ敵ノ犠牲ヲ特別ナル死者ニ手向ケン東西著名ノ二大例ヲ引証スベシ

「グロート」ノ希臘史ニ曰ク

「カーケーヤ」人ハ「ハミルカー」 Panicear ノ死ヲ悼ミ本國並ニ各殖民地ニ於テ

○死者又神前ニ怨ヲ晴サシメン爲メ人肉ヲ供スル場合

供養塔ヲ建テ時節時節ノ犧牲ヲ備ヘテ之ヲ祭レリ。倭テ「ハミルカー」打死ノ古戰場ナル西班牙國「ヒメラ」Himeraニハ希臘人ヨリモ彼ノ爲メニト紀念塔ヲ建テタリシニ其後「ハミルカー」死后七十餘年彼ノ勇武ナル孫ハ「ヒメラ」ノ市街ヲ畧奪シ三千人ノ希臘人ヲ屠殺シテ鮮血淋漓タル犧牲ヲ其塔前ニ供シタリキ（「ハミルカー」ハ紀元後二二九年戰死ス）

羅馬史ヲ讀ム者ハ必ズ知ラシ羅馬「カーセーヤ」ノ間ニハ有名ナル「ビユートニック」戰爭ヲ挾ミタルコトヲ然シテ希臘人ハ羅馬ニ加擔シテ「カーセーヤ」ノ敵タルモノナラバ「ヒメラ」ニ於テ「カーセーヤ」人ガ羅馬人ト戰フテ戰歿シタル「ハミルカー」ノ供養塔前ニ希臘人ノ血牲ヲ供セシハ實ニ情感上其怨ヲ晴ラシメン爲メ其敵肉ヲ供スルモノナリ蓋シ希臘人羅馬人「カーセーヤ」人昔時皆食人種タレバカ、ル際ニモ覺エズ知ラズノ間敵肉ヲ供シテ死者ノ冤魂ヲ慰スルニ至リタルハ人類遺傳的ノ習慣實ニ自然ニシテ滅スベカラザルモノナルノ一証トナスニ足ルベシ

室鳩巢ノ赤穂義士録ノ元祿十五年赤穂義士復仇ノ後泉岳寺ニ至ル條ニ曰ク

良雄等行至泉岳寺……先使三人取水來洗義英首盛以素盤置之墓前……良雄又進至墓前懷中出匕百一拔之置諸碑附上鋒刃外向衆皆圍墓跪座良雄乃出祭文讀之曰……此匕首昔公在時割所愛以賜良雄者今謹還上公有靈諸以此甘心仇人以快當日之怨……讀畢起取盤上首以匕首擊之三乃復焚香拜退衆亦如之皆泣數行下云々

赤穂義士ノ復讐ハ本邦有名ノ仇討談ニシテ彼ノ四十七士ガ亡君ノ冤死ヲ聞キテ痛憤切齒措ク能ハズ流離顛沛シテ言フ可カラザル艱難ヲ忍ビ遂ニ一旦其復仇ノ宿志ヲ遂ゲタルモノナレバサテモ其怨敵ノ首級ヲ擧ゲテ直ニ亡君ノ墓上ニ供シ其怨靈ヲ慰セントセシモノナラン然モ又一步ヲ進メ考フレバ如何ナル惡敵ナリト雖モ一旦彼ヲ殺セシ上ハ怨ヲ晴ラスノ望ハ直ニ飽キ足ルヘキモノナレド一層憎惡ノ深キ者ハ遂ニ其首ヲ擧ゲテ死者ノ墓前ニ手向ケテ其靈ヲ慰スルニ至ラン是レ蓋シ死者ガ其敵ノ首ヲ見テ喜悅シテ怨ヲ消ストイフモノノ實ニ憎サモ憎シト思フ怨敵ナレバ其亡魂ガ來リテ舊怨ヲ修メテ其肉ヲ食フテ甘心セヨトナ期シテナルベシ蓋シ日本ノ如キ食人風俗ノ比較上絶滅セ

○死者又神前ニ怨ヲ晴サシメン爲メ人肉ヲ供スル場合

ル社會ニアリテハカ、ル解釋ハ甚ダ困難ナリト雖モ徐ロニ世間ノ通情ヲ察シ風俗進化ノ定法ヲ考フルニ此カル場合ノ人体犠牲ハ實ニ結局ノ點ニ於テ情感上其敵肉ヲ食シ

然ルニ世移リ物換ハリ又時代ノ經過ニ於テ酋長、帝王、或ハ有力ナル戰死者等ノ名モ忘レテ戦争打死等ノ壯烈ナル談話モ已ニ全ク人ノ記憶ヨリ消エ去ルニ及ビテハ唯ダ覺束ナキ口傳ニヨリ何ノ神ハ戰ノ神ナリ何ノ神ハ勝利ヲ護ル神ナリナド、唱ヘ並ビニ殺伐ヲ喜ビ血ヲ好ムモノトシテ屢人ヲ殺シテ之ヲ犠トセルコト之レアラシク我日本ニ於テ古來軍ノ旗揚ゲテナストキ人ヲ屠リテ犠トナシ血祭リト稱ス彼ノ維新前浪士ガ暗殺

之ヲ要スルニ人類ハ情感上ノ作用ニヨリ敵ヲ殺シテ其肉ヲ食フノ習慣アルヨリ又情感上ノ作用ニヨリ死者ノ爲メニ其敵ヲ殺シテ其肉ヲ食ハシメントスル全一ノ習慣ヲ生ズルコトハ尤モ至當ノ道理ニシテカ、ル場合ノ人性ハ素ヨリ尋常食物トシテ供スルニハアラザルモ死者又神ニ舊怨ヲ修メテ之ヲ食ハシメントテ供スルモノナレバ猶ハ間接ニ

食物トシテ供スルノ意ハ失ハザルモノトイフベシ

第二十 誠心ヲ表スル爲メ人体犠牲ヲ行フ場合

人類已ニ食人ノ風俗ヲ存スル限リハ死者神前ニ人体犠牲ヲ行フノ習慣ヲ生ズルハ尤モ自然ノ事ナルガ次ニ人類ハ元來孰レモ舊習ヲ重シテ新事ヲ喜ハズ殊ニ宗教上ノ儀式等ニ至リテハ一層祖先又死者ノ靈魂ヲ恐ル、深キ爲メ容易ニ之ヲ改メザルモノナレバ人体犠牲ノ如キ一タビ某ノ神ヲ祭ル儀式ト定ムレバ後世非常ノ年代ヲ經ルカ非常ノ世變ヲ享クルニアラザレバ譬ヒ其根原ナル食人風俗ノ絶エタル後ト雖モ容易ニ之ヲ改ムルコトナキモノトス

「スペインサー」ノ社會學ニ曰ク

米國發見ノ當時西班牙人ノ南米侵入ノ時「チブカ」Cibola 土人ハ西班牙人ヲ神ト思ヒ人ヲ犠トシテ捧グ來レル事アリ然シテ此時「チブカ」土人ハ已ニ食人ノ風ヲ絶チタルコト著シキ事ナリシカバ「アホスタ」Acosta ノ如キ爲メニ之ヲ怪ンテ何故ニ「チブカ」人ハ野蠻ナル供物ヲ捧グ神聖ナル日輪ノ子(西班牙人)ガ喜ビ受クルナ

○誠心ヲ表スル爲メ人体犠牲ヲ行フ場合

ラント思ヒシヤト尋テタルコトアリキ……

蓋シ此ノ如キ時代ニ際セル人性ハ曰ニ食物トシテ供スベキヤ否ヤハ忘レタリト雖モ唯
宗○教○上○ノ○仕○來○リ○ト○シ○テ○古○來○ノ○習○慣○ニ○一○致○シ○鬼○神○又○長○者○ニ○對○ス○ル○從○順○ナ○ル○誠○心○ヲ○現○ハ○ス
儀○式○ト○シ○テ○捧○ゲ○シ○モ○ノ○ナ○リ

蓋シ人類ハ一個ノ動物ニシテ其總テノ存在中尤モ尊キハ身体生命ナリ故ニ今若シ誰人
ニテモ其身体生命ヲ抛テ一ノ義務ヲ盡クセバ是ク實ニ最上絶後ノ義務ヲ盡クセルモノ
ナリ太平洋島「フヒーチー」人種ガ酋長ニ向フテ第一等ノ忠義ヲ盡クスニハ其爲メニ食
物ヲナルコトナリトハ探險者ノ記中屢々見ユル所ナリ

カ○ル○習○慣○ノ○進○行○ス○ル○ニ○於○テ○ハ○人○類○ガ○何○ノ○原○因○ニ○セ○ヨ○神○ニ○對○シ○テ○滿○腔○ノ○熱○心○ヲ○瀝○ギ○眞
實○恭○順○ノ○意○ヲ○表○ス○ル○場○合○ハ○己○ノ○身○ガ○他○人○ノ○身○カ○テ○犧○牲○ト○シ○テ○之○ヲ○祭○ル○ノ○風○俗○ヲ○生○ズ○ル
ニ○至○ル○ハ○尤○モ○當○然○ノ○道○理○ナ○ル○ベ○シ○其○例○証○我○ガ○日○本○ノ○國○史○ニ○見○ユ○ル○モ○ノ○數○條○ア○リ○日○本○紀
景行紀日本武尊ノ條ニ曰ク

進ニ相摸ニ欲ニ往ニ上總ニ望ニ海高言曰是小海耳可ニ立離渡ニ乃至ニ于海中ニ暴風忽起王船漂

蕩而不レ可レ渡時有ニ從王之妾一曰弟橋媛……啓レ王曰今風起浪溢王船沒是必海神心也
願○以○妾○之○身○贖○王○之○命○而○入○海○言○訖○乃○披○瀾○入○之○暴○風○即○止……

又全書仁德紀茨田ノ堤ヲ築ク條ニ曰ク

時天皇夢有レ神誨レ之曰武藏人強頸何内人茨田蓮衫子二人以祭ニ於河伯ニ必獲レ塞（堤
坊ノ塞ルタイフ）則覓ニ二人ニ而得レ之因以禱ニ于河神云……

攝津名所圖繪長柄橋ノ條ニ曰ク

嵯峨天皇弘仁三年夏六月長柄橋再營ノ時官令シテ繼袴ヲ着シタル者ヲ捉ヘ人柱ニ供
スベシト定メ新ニ一關ヲ設ケ往來ヲ檢ヘシニ岩氏長者ナルモノ繼袴ヲ着シ過ク守者
捉ヘテ人柱ニ築込ミタリ……（大意）

源平盛衰記入道非ニ直人ニ條ニ曰ク

彼島ヲハ（攝津經島）阿波民部大夫成良ガ承ハツテ承安二年癸巳歲築初タリシテ次年
南風忽ニ起テ白波頻リニ扣カバ打破ラレタリケルヲ入道倩此事ヲ案フ人力及ヒ難シ
海龍王ヲ可奉宥トテ白馬ニ白鞍ヲ置キ童チ一人乗テ人柱ヲ被入ケル其上又法施ヲ

○誠心ヲ表スル爲メ人体犧牲ヲ行フ場合

手向可奉トテ石面ニ一切經ヲ書寫シ其石ヲ以テ築タリケリ誠ニ龍神納受アリケルニ
ヤ其後ハ恙カナシサテコソ此島ヲハ經島ト名付クレ

蓋シ我日本ノ風俗ニアリテハ昔シヨリ大ナル難工事啓ヘハ架橋築港等ノ如キ工事ヲ行
フニ際シテ其成功ヲ神ニ祈ル爲メ人柱港柱生牲等ノ名稱ニテ人体犠牲ヲ行フノ例証夥
多ニシテ僻遠ノ地方等ニアリテハ比較上近代マテ其習慣ノ存在セシモノモ是レアリシ
ガ如シ抑モ是レ日本人種ノ祖先ハ一度其忘レテタル古キ時代ニ食人ノ風俗ヲ存シ無
數ノ年代ヲ積ミテ其風俗ノ變テ來シ遂ニ有史時代ニ於テハ早クモ人体犠牲ノ末期ノ時
代ニ達セルモノナラン

但シ我本邦ニ在リテハ上古ヨリ人跡多ク開ケザル山中等ニアリテハ惡ム可キ山獸等ノ
跋扈ニヨリテ愚昧ナル人民等ハ半ハ其暴力ニ恐レテ之ヲ鬼神視シ人身糞供ト稱シテ婦
人小兒ノ如キ抵抗ノ少ナキ人類ヲ其食物ニ供シテ彼ガ暴欲ヲ充タシメシコトアリシガ
如シ

今昔物語ノ第廿六卷美作國神依獵師謀止生贖語第七ニ曰ク

今ハ昔美作ノ國中參高野ト申ス神在マズ其神体ハ中參ハ猴、高野ハ蛇ニテ在ケル毎
年一度其祭リ生贖ヲ備ケル其贖ハ國人ノ娘ニテ……

此等ノ傳説ニヨリ考フルトキハ右ノ生贖ハ決シテ上文ニ記セル築港架橋等ノ場合ニ於
ケル犠牲ト全一ノモノニアラズ全然山獸等ノ暴欲ニ報ユベキ愚民ノ迷信ヨリ起コレル
モノニシテ彼ノ芝居院本ノ武者修行流ガ退治スル怪猴的ノ食人ニシテ余ガ本考ニ述ブ
ル所ノ人類的食人ヨリ起コル人体犠牲ト聊カ其根源種類ヲ異ニセル一時ノ奇風タルヲ
免レザルモノナリ

第廿一 人体犠牲ト殉死ノ區別

未開ノ人種ハ靈魂ノ不死ヲ信ズルガ故ニ人ノ死スル時モ未來ノ生活アリトナシ其尸体
ニハ日用娛樂ノ雜品ヲ備ヘ之ヲ葬リテ後ト雖モ猶ホ全一ノ待遇ヲ仕向クルハ世間各國
各人種間常ニ見ル所トナス而シテ其死スル者ガ帝王酋長若クハ一部落ノ有力者ナル時
ハ其生時ト全一ノ需用品ヲ給スル中或ハ奴隸、妻妾、臣僕等ヲ送クリテ又其平生ノ勤
務ヲ欠ナク實行セシメントスルハ是又自然ニ引續キ起コルベキコトナリ此ノ如クシテ

○人体犠牲ト殉死ノ區別

死者ニ來世ニ仕ヘン爲メ身ヲ殺シテ牲トナルヲ殉死トイフ

殉死ノ風俗ハ世界各國各人種間ニ於テ其原始ナル祖先ノ時代若クハ現在ニ於テハ殆ド一度其流行ヲ見ザルナク又流行シツ、アラザルコトナキ程ノ原始的普通習慣ニシテ遠ク海外ノ歴史ニ及バズ我日本ノ歴史ニアリテサヘ割合近代ニマデ其痕跡ヲ存セルハ國人ノ熟知セル所ナリ特ニ古記ニ見ユル垂仁天皇時代ノ殉死ガ生ナガラ臣僕ヲ墓中ニ埋メシ如キ特ニ殉死ノ目的ヲ説明スルニ方リテ尤モ必要ノ材料トス日本紀垂仁紀ニ曰ク二十八年云々葬ニ倭彦命于身狹桃花島坂ニ於テ是集ニ近習者ニ悉生而埋立ニ於陵域ニ數日不レ死晝夜泣吟遂死而爛臭之犬鳥聚噉焉……………

海外ニ在リテハ殉死ノ例証又夥多ニシテ亞細亞非利加亞米利加大洋洲等至ル所ノ記錄口傳ニ其實事ヲ傳フル枚擧ス可カラズ就中「スベンサー」ノ社會學ニヨレバ

亞非利加「ゾホメニー」國ニ於テハ國王ノ死後ニ娑婆世界ノ消息ヲ傳ヘ得ル爲メ時々人ヲ殺シテ犧牲トナス事アリ……………又全書ニ曰ク

米國ノ古代「メキシコ」土人ハ葬時ニ多クノ犧牲ヲ用ユルヲ以テ其式ノ盛大ナルモノトシ或時ハ二百人程ヲ一時ニ殺セシコトアリ又古代「ペリユー」國ニ於テハ國王ノ死ニ童僕婢妾等一千人ノ犧牲ヲ用ヒシ事アリ……………

亞非利加「コンゴ」地方ニハ國王ノ死スル時少女十二人殉死スルノ風アリテ其少女ハ早ク殺サレテ死セル國王ノ前ニ侍セントテ五ニ順番ヲ爭フテ殺傷スルコトアリ此ノ如キハ唯千分一ノ例証ニシテ其習慣ノ實際流行セル有様ハ更ニ幾倍ノ奇觀ヲアツハセルコト記載ニ遑アラザルナリ

抑モ殉死ト人体犧牲トハ其原因ヲ異ニシテ其結果ヲ同ウセル習慣ニシテ其性質ノ相似寄リタル聊カ混淆ノ嫌ナキニアラズサレバ何國ノ歴史古傳ヲ讀ミテモ死者ノ爲メニ人体犧牲ヲ行フ風俗アリトスルモ直ニ是ヲ以テ其祖先ノ食人風俗ヲ存セシ遺証ト認メ難キ事多シサレバ今本考ノ如キ研究ヲナスニ當リテハ其材料蒐集其理論斷定ノ上ヨリ鼠ルモ其兩者間ニ明白ナル區別ヲナスニアラザレバ議論ノ根據或ハ誤リテ意外ノ認定ヲナスヤ計ルベカラザルモノアリ因テ今左ニ繁ク避ケ要ク摘ミ兩者風俗ノ根源性質ニ於

○人体犧牲ト殉死ノ區別

テ如何ニ比較相違アルモノカヲ示サン

第一

殉死ハ人類ヲ人類トシテ供スルモノナリ
人体犠牲ハ人類ヲ食物トシテ供スルモノナリ

第二

殉死ハ妻妾臣屬奴隸等總ヘテ死者ニ關係アリ又ハ或ル勤仕ヲナス可キ責任ヲ有スル者ヲ以テ犠トナス

人体犠牲ハ男女老若捕虜外敵ヲ問ハズスベテ食物トナシ得ベキ人類ヲ以テ犠トス

第三

殉死ハ何百人ヲ殺スモ盡ク零魂不死ヲ信ゼリ

人体犠牲ハ時トシテ之ヲ信ゼザルコトアリ (「ニューランド」島土人ハ食ハレタル

人ノ靈魂ハ消滅ストセリ)

此ノ如キ兩者ノ間三種ノ現然タル區別ヲ有スルモノナレバ其性質ハ相似寄リタル中又

自然ニ混ズ可カラザル限界素ヨリ等フ可カラザルナリ蓋シ人類學社會學等研究ノ上ニ於テ注目一番ス可キトコロニシテ特ニ食人風俗ニ亞デ引キ起コル所ノ人体犠牲ノ研究ニツイテハ尤モ反覆ノ意ヲ致シテ誤マリタル斷定ヲ下スベカラザル所ナリ

我日本ニ於ケル人体犠牲即チ人柱俗ニイラ人身御供ノ如キハ上文比較條目ノ上ヨリ者フルモ特別ニ其捧グル鬼神ニ關係ヲ有スル人ヲ犠牲トスルニハアラズ又其犠牲トナル人ノ靈魂不死ヲ必要トスル道理モナケレバ其原因ハ全ク食物的犠牲ノ根源ヲ忘レラレタルモノトナスコトハ是ニ至リテ初メテ明白ニシテ讀者ノ首肯スルトコロトナラン

第廿二 結論

余ハ以上ニ於テ已ニ人体犠牲ノ風俗ハ食人風俗ニ亞デ自然ニ起コルベキ進化ノ段階ナルコトヲ示セリ今ヤ便宜ノ爲メ再ビ其條目ノ要領ヲ茲ニ採録セン

第一 未開人種ハ生死ノ區別判明ナラザルヲ以テ死者モ猶ホ別世界ニ於テ生者ノ如キ生活アリトナシ食物其他ノ物品ヲ尸前墓上ニ供獻スル風アリ若シ其人種ニシテ食人ノ風俗ヲ存スレバ食物ノ中ニ人肉ヲ加フルハ尤モ當然ノ事ナリ

第二 死者ノ墓ハ年代ヲ經テ祠堂トナリ遂ニ其死者ガ有力ナル神トナルニ至テハ譬ヒ其現在ハ食人ノ風絶エタリトスルモ古例ノ祭儀等ニヨリ猶引續キテ人体犠牲ヲ行フ可シ以上ハ兩方ノ場合ハ全ク食物トシテ人類ヲ食ヒシ人種間ニ又食物トシテ人体ヲ供スル犠牲ナリ

第三 人類ハ情感ヲ有スル動物ナラバ情感上ニ於テ人ヲ食フノ場合アルコトハ已ニ食人風俗考中ニ論述セリサレバ今食人ノ人種ニシテ戰爭喧嘩其他不慮非常ノ場合ニ殺害セラルトキハ朋友遺族ガ爲メニ復讐シテ其敵ノ肉ヲ死者ノ墓上ヨリ遂ニ祠堂ノ前ニ獻ズルコトアルハ免レガタキコトナルベシ此ノ如キハ間接ニ怨ヲ嗜ス爲メ敵肉ヲ食ハシメントスルヨリ起ル犠牲ニシテ尋常食物ニ獻ズル場合ノ犠牲トハ稍異ナレリ

第四 人類ハ食物トシテ若クハ情感上怨ヲ嗜ラス仕方トシテ人体犠牲ヲ行フ中風俗ノ變遷ニヨリテ食人ノ風習全ク絶エ且ツ人体犠牲ヲ行フ精神モ打チ忘レテ單ニ神ニ對シテ誠心ヲ表スル爲トテ人体犠牲ヲ行フニ至ルコトアリ

第六 人体犠牲ノ内ニハ食欲上若クハ情感上食物トシテ之ヲ行フモノ、外死者來世ノ勳ヲ盡サントテ犠牲ヲナスモノアリ之ヲ殉死トナス前者ハ人ヲ食物トシテ獻シ後者ハ人ヲ人トシテ獻ズル等ノ相違アレバ材料蒐集ノ際注意スベシ

之ヲ要ズルニ人類ガ食人風俗ニ引續キテ行フトコロノ人体犠牲ハ其原因ニ二種アリテ而シテ其結果ハ一様トナリ初ハ直接間接ノ食物トナスヨリ起リ遂ニハ誠心ヲ表ハス手段ト終ハリ自ラ一定ノ進化段階ヲ躡ム又自然ニシテ移ス可カラザルモノニ似タリ蓋シ人類世界ニ行ハル、コトニシテ何事ト雖モ簡單ヨリ複雑ニ赴キ實用ヨリ虛式ニ移リ進化變遷ノ跡ヲ闕セザルモノ殆ド希ナリ乃チ食人風俗人体犠牲風俗ノ如キ一見奇異ニシテ社會上調子外ヅレノ行爲ノ如キモ細カニ其性質移リ行キテ考フレバ自ラ一定ノ脈絡貫通シテ世ヲ經ヘ時ヲ闕スルニ及ヒテハ推移變遷ノ痕歴然トシテ一種人類學的社會學的ノ進化哲理ヲ躡ム實ニ現然滅スベカラザルモノアリ因テ聊カ所考ノ大略ヲ述ベ世ノ大人識者ノ是正ヲ乞ハントスルナリ

野口寧齋題詞 宇田滄溟著新刊發賣

龍上偶語

洋綴全 壹冊

正價金拾五錢

郵稅四錢 郵券代用二期増

俊傑傳あり 騎士傳あり 詩文論あり 一括して 龍上偶語に存す、其に千

紫萬紅の觀あるのみ。作者は是れ詩人宇田滄溟君、雄心勃々虎鬪兩筆せるもの、此

人にして已に此書あり讀者若し一掃せば趣味津々不覺快哉を絶叫せしむべし。月下清涯孤

前宮内大臣伯爵

土方

久元君

題字

陸軍中將子爵

石田

干城君

題字

前高知縣知事

丸岡

莞爾君

序文

故從四位勳二等

瀨口

眞澄君

序文

前土佐郡長

三浦

一竿君

序文

前香川郡長

小松

三省君

序文

前衆議院議員

小松

三省君

序文

海南學校講師

西森眞太郎君

跋

南海之偉業

一名野中兼山一世記

洋綴大形全壹冊紙數百七十余頁

正價金貳拾五錢

郵稅六錢

兼山自筆書翰挿入

●大阪朝日新聞批評古今の學者說一家を成し名天下に著はるもの鮮なからす身匹夫より起りて王者の師となるもの亦之れなきに非ず獨り其學の術と業とを以て之を事實に施し利を後世に遺すものに至りては前代の儒流に之を見ること殆ど罕なり 南海に偉

人あり野中兼山と曰ふ天資剛邁夙に朱學を修め年僅に二十二藩の執政

に任じ溝洫を通じ荒田を墾し港灣を築き漕運を便にし物産を殖し其遺澤今に

及んで朽ちず誠々偉功と謂ふべし兼山の爲す所のもの今

日に在りては固より企て難からずと雖も當時に在りては卓識秀才の士と雖も尙ほ之を行ふ

こと能はざりき唯前代に在りて兼山と其蹟相肖たるもの熊澤蕃山となす然れども蕃山の備

第二版發行せり

藩に於けるや其功成り身退くに躊躇せざるなり晩年言を献じ將軍綱吉の旨に忤ひたりと雖も壽を以て終り後世其徳を議するものなし兼山よ至りては然らず
 政令峻刻驕奢人に過く遂に群謗奇禍招きて貶謫の間に死す其跡實に悲むべき
 たり編者其遺業の湮滅せんことを恐れて此編述あり其志洵に美なりと謂ふべし

自由黨總理 伯爵

高知縣中學校校長

滄溟漁史

農商務省技師

農學士農藝化學士

板垣退助君序文

澁谷寬君序文

宇田友猪君序文

澤野淳君演述

農業講話

洋綴美本 全壹冊 正價拾二錢

農國に生るもの農書を讀まざる可ならん

や農書を讀む 將た先づ何に於て之を求むべき。簡にして要切にして實精にして確。夫れ唯た農業講話なる哉、夫れ唯た農業講話なる哉。

河田小龍翁著書

土佐十景 吸江圖志

和綴木版 全壹冊 正價金十二錢

我海南畫家の秦年として其名八紘に轟き三尺の童子と雖も知得するは夫れ河田小龍先生にあらすや先生は我吸江十景の歳を逐ふて古蹟の埋没するを遺憾とせられ明治十一年本書を著述せられ諸先生の題字序跋詩文和歌等を掲載し資金を吝まらず密畫彫刻を出版せられたる良書にして先生が得意の密畫と印刷の鮮明とにより非常の好評を得暫時に費切となり今尙は講讀者あるも先生他國せられ再版する余暇なし或翁深く之を遺憾とし弊店へ向け勸告せられたれば直ちに是れを先生に懇請せり營利的の先生にあらざれば早速に承諾の榮を蒙り今般弊店に於て出版し廣く發賣せんとす江湖各位續々御注文あらんことを

松野尾章行翁製圖

高知市街圖

石版刷 全一折 正價五錢 郵税二錢

高知縣管内地圖

石版刷 全一折 正價三錢五厘
郵 稅 二 錢

六

土陽叢書

每月一回發行

土陽叢書第一編

土藩大定目

全一冊 正價拾二錢 郵稅二錢

本書は封建時代に於ける土州藩の法令を蒐集したるものにして綱目大凡三拾九件あり實に政務家實業家考古家等の一讀を要すべき良書なり

土陽叢書第二編

山内武功

全一冊 正價拾二錢 市外郵稅二錢

本書は天下麻の如くに亂れし天正慶長の頃千軍萬馬の間に馳驅し彈矢雨注の中に入入して武勳赫灼遂に土國に封せられたる藩祖一豊公の武勳記事なり

寺石正路君著述(土陽叢書第三四編)

附するに臣僕の公矢石の間に從ふて奮戦格闘せる經歷を併記せり請ふ御愛求を玉へ

土佐遺聞錄

全三冊 正價貳拾四錢 郵稅六錢

本書は土佐の國の風俗、美術、人物、工業、古跡骨董等に關する歴史上の實談を採録せる者にして文章明暢に材料貴重なる一々精

七

金美玉の如く土佐國の古實を知り歴史を窺はんとする者は一日も座右に欠くべからざる良書なり

福鳴鷗波子著述(土陽叢書第五編)

紀貫之

附土佐日記

全壹冊 正價金拾二錢

郵税二錢

紀貫之は歌仙なり、政治家なり、貫之を景慕する者必ず仙歌と稱し政治家たるを知らず、

著者茲に感ありこの文を草す考証正確議論精識蓋し貫之に於ける千古の知己なり文學の士購ひ得て其正否を玩味あれ

寺石正路君著(土陽叢書第六編)

土佐人物傳

上卷 正價拾二錢 郵税二錢

南國由來武を尙ひ文を斥す況んや鎖國二百年の間魁偉

奇傑の土傳記湮沒し世に傳はざる者十の八九、著者之を慨し奮て爲めに此傳奇を草す、考証の該博にして精確なる文字の簡明にして

着實なる、以て正史の闕を補ふに足る彼の尋常時流文を賣る的の無責任著書と大差あり、史を嗜み古を慕ふ有志の諸士は請ふ一讀あれ

茨木安並兩君評、寺石正路君著 土陽叢書第七編

土佐古跡巡遊録 上卷 正價十八錢 郵税四錢

海南九十九里の濱、松青く砂白きの中古碑を探ぐり、名城を訪ひ、夕陽低徊懐古の涙を灑ぐ感慨風流並びに其中に在り洵に近日出色の紀行文字となす

風懷古を慕ふ士、青年文を學ぶの人、机上此一書を欠くべからず 青木義正君著(土陽叢書第八編)

正價金十八錢 郵税二錢

●長曾我部元親
 ●土佐古跡巡遊錄
 ●土佐人物傳
 ●全

下卷 近刊
 中卷 近刊
 下卷 全

富田幸次郎君序文 武市佐市郎君著
 松野尾章行翁訂正

●土佐近世商業史
 寺石正路君著

全壹冊 全

●土佐四大地震記
 松野尾章行翁著

全壹冊 全

●高知市沿革史
 其他諸大家先生の編纂中なれば不日之を發表すべし請ふ諒せよ

全壹冊 全

松野尾章行翁著
 出版豫告

●白灣往來

全壹冊 近刊

題して白灣往來と云ふ之れ九十九洋我土佐の謂なり、本書は松野尾翠軒翁の著述する者、今般請ふて我土陽叢書に發行するの榮を蒙れり、其記する處尋常一般の記行文に異なり、我土佐の歴史を知り地理を案するの士は本書の出づるを待て知らるべし此段愛願諸君に豫告す

開成舎本店主 片桐猪三郎

松村翠陽著

○土佐昔噺

遂次發行す

●土佐昔噺 第一編 まねし爺
 ●土佐昔噺 第二編 新兵衛
 ●土佐昔噺 第三編 いしきり
 ●土佐昔噺 第四編 水之助

近刊 近刊 近刊 近刊

土佐國人名辭書

予は夙に我土佐の國諸名家の聲名が徒に草野の間に埋没煙滅し去りて人の知るものなきに至るを憂ひ開關以來三千余年間土佐に關係ある士庶名工藝諸雜家に至る迄苟も有名なる人々は皆之を網羅せんと欲し既に「土佐國人名辭書」なるもの編輯に従事し明治二十六年以來業に己に六閱年諸名家の事蹟を蒐集せる事二千五百余名の上に出づ近年建碑の事非常に流行せり是實に美譽なりと雖も尙ほ弘く海内に知らしめ芳名を永遠に傳ふるに至つては之と青史に留むるに如かず然らば名家の祖先をして其功績と名譽とを發揚せしめ従つては考の理に當らんかし依て有名なる人士の子孫知已たるものは其紀傳を吝むなく予に寄送せられたし就は快く之を該書中に收むべきなり豫て茲に記して各士に告ぐ

高知市北新町四丁目三番地

武市佐市郎

追白各士の便利によりて予又は開成舎本店へ寄送せられ度偏に奉希望候
尙ほ各士の都合上もある事ならん程に單に傳記に限らず第一の任用は其人の主要なる事蹟と姓名は勿論の事通稱、字、號、諱、法名、住所時代年月日、死亡年月日墓所父母兄弟姉妹師弟の關係、官位爵、職業、著作あれば書名、名作の品あれば品名、創始せし事あれば其事蹟、先づ大体は丈分明なれば宜しく候へ共不明なれば分明せし事迄にて充分なり其心して寄送あり度候其初若し書冊より採萃せしなれば其書目をば御記し被下度候左に今日迄蒐集せし目次をば記して參考に供せん然れ共單に是れに限るに非ず尙ほ他にあらば寄送被下度候也

目次

(官職) 國造。國守。國司。目代。介。權介。守。權。大目。直人。朝臣。據。權。據管。前司。按察司。判

官代。探題。守護代。守護職。少領。女官等(將士)古城主。國士。守護。土居領。軍人。癸丑以來國事艱難者。戊辰破戰死者。西南役戰死者。征清役殉難者等(名家)四家。豪族。十一人衆。七人御先。一條四家老。泰三。山内家老。影此者五人衆。本井田五人衆。本川五堂。嶺山郷七宮人。勸王堂等(配領)配流人。御領人等(武術)弓。劍。柔。鎗。寸鎗。手利劍。鐵砲。要馬。車目等(文藝)和文家。文章家。詩家。和歌。狂歌。連歌。俳家。狂句。テニハ。小説家等(學術)儒家。漢學。國學家。佛學。禪學。易學。心學。兵學。禮式(故實)等(書畫)書家。洋畫等(忠孝節義)孝子。義人。義夫。義婦。義士。義僕。按民。貞婦。節婦。忠士。忠婢。忠僕。賢婦。順民。復讐等(奇)奇人。奇童等(職人)工。金工。刻工。細工。刀工。大工。鋸工。鐵工。陶工。山内御拒職人。甲冑師等(技術)銅印。印刷。鈕刻等(技藝)謠曲。長唄。義太夫。女義太夫。琵琶。三絃。一絃琴。琴。笛。尺八。其石。抹茶。插花。鞠。能狂言。能役者。能大鼓。能小鼓。織物。鑑定家。俳優。相撲。投網等(政治家)。(經濟)經濟家。商業家。銀收發行者等(醫)醫師。陰陽師等(神佛敎)神道。高僧。取薄等(機切。天文)機切。天文。測量家等(起業)發明家。創始家。製造家。製紙家。航海家等。

土佐遺聞錄批評

國民新聞 著者が土佐の舊事遺聞を尋ね風俗上歴史上の參考となるべき者を蒐録せるもの叙事簡明行文流暢有讀書子の料として有益なる有趣味なる著なり美術。文學。歴史。風俗。等山迎へ水送るの感ありて面白し

日々新聞 土陽叢書第三冊にして高知片桐某の發行にす處土陽に於ける著名の事蹟人物傳を網羅し巻を追ふて上梓する由なり

大阪朝日新聞 土佐の國自慢なりされど史料の蒐集に志ある人は一讀すべきものなり

◎土陽新聞

本書は我土佐國の名處舊跡古事遺聞に關する歴史上の由來縁起をば
趣味ある文章を以て叙述せるものなり讀者一本を購ふて座右の珍をせば其益する處
尠少にあらざるべし著者は斯道に精通する寺石正路氏なり

◎日本新聞

土陽叢書中のもの土佐の舊事歴史等をつきくに記せるものなり、
土佐に限らず一般の史料となるもの多し

◎帝國文學

土陽叢書第三編として出てたるものなり其緒言に云へる如く著者が
自國の考古志料に供すべき良書好著の無きを憂ひて、其見聞せし所の舊事遺聞を蒐集
したるものなり、近事輕浮の作多き世の中には實著のもの云ふべし、以て其國の古
跡風俗人物等の大畧を窺ふに足るべきか記事の殖燥に且りがちなるは事實の然らしむ
る處是非もなきとはいへ今少し何とかありたきものなり

◎讀賣新聞

土陽叢書の第三卷にして土佐の人物事跡の舊代記憶に存して正史に
見へざるものを補綴したるものなり

◎史學雜誌

土佐遺聞録には土陽叢書と云ふ、將に刊せらるべき稿中より、寺石正
路氏が若干章を抄録して上梓したるもの、由にて書中録する處七十余件皆書名自ら詮
する如く、土佐國の舊事遺聞にかゝる、其一條氏事蹟、長曾我部氏の摸規、平民の遺族、
眞女親王の塔などの事、或は呂宋と往復の文書なりといひ或は土佐に馬來人種ありな
る事多し、猶海南第一流の人物と稱せらるる、野中兼山の事蹟の如きは世に明かなら
ざるもの多ければ力めて照會の勞を取られんとを希望す

◎高知縣中學校同窓會雜誌

土佐遺聞録。土陽叢書の第三編とし

て世に顯はるる余輩は現今史學研究の氣運が盛に地方史に向つて進行し、我が土佐史
海の如きか近時著しく活氣を加へ來つて國史に貢獻する所あらんと企てつゝ、あるを見
て、常に祝賀の念を禁する能はざるものなり、土佐大定目、先づ此叢書の第一編として
世に顯はれ、繼て山内武功も亦第二編として刊行の舉に逢ふ、此等の書か我讀史家に
益を與へたる余輩が爰に説くを要せざる所而も其趣味か或一派を除て稀に世人を喜ば
しめたりさも亦事實なり切言すれば史家以外に史家的趣味を注入する能はざりしかり
。畢竟するに史家普及鼓吹の法は乾燥燻を嚙か如き記録を取るへからずして、興味津津
不知の間に其知識を得せしむべきの著作を擇まざるへからず。本書は此目的に向つて
最も適當なる著作の一なること疑ふべきに非らず。紙數僅に百三十頁寸珍本にして民
友のスタイルを擬す、内には非生蔓橋の人柱より、豊永郷射法に至る四十有餘條を收
む、腹藏なく云しめは材料甚だ斬新ならず議論未だ全く妥當ならず、而も其大体より之
を論ずれば、考證の該博なる、史眼の銳光なる、著者其人を想見する足る、彼の細川頼直
を紹介して、彼か功績を擲揚せるか如く、彼の花臺の沿革を明にして「土佐の花」と稱せ
んと叫ぶか如く、或は岡村十兵衛の事蹟を採つて其謬傳を正せるか如き、或は泰氏の教
育を論じて當時の文彩を示せしか如き、如何に著者か光焰の萬丈にして斯學に遠きを
証するに足るべし、唯だ著者か土佐を賞揚せんか爲めに餘りに奇論を吐かざるか如き
は、惜むべきの至りなりと雖も、是れ白壁の微瑕のみ文章の雄健にして、怡も天馬の空を
驅るか如きは、近來稀に見るの好文なりとす、就中白大夫の一章最も出色を極む。著
者、性は寺石、名は正路。余輩が常に土佐史海の先輩として尊敬する所の學者、斯學に遠
き我縣第一と稱す此書の如き唯に氏か閑餘の吟筆に過ぎざるべし、而も學者を益する
幾何なるを知るへからず。然りと雖も、余輩は聊か本書に就て氏か教を乞はんを欲す
るもの又少きに非らず。唯恨らくは學窓頗る多忙、其意を盡す能はず爰にたゞ本書を紹
介して世に推薦するに止まるのみ。妄言多罪。

◎土佐人物傳批評 東京史學雜誌評

是れ近頃土陽叢書てふ名目の下に土佐國の人物事蹟を網羅せんとの抱負を以て現れ出たる叢書の一部にして、此度其前編を發行せり、著者は此前土佐遺聞録を出したる寺石正路氏なり、著者は元來土佐國は山水秀麗其間幾多の人物輩出せり彼の野中兼山の如き經論家より勤王家經學家等實に夥し然るを從來取別けて之を筆に物せんとするもの少く、かくては土藩の人士にして一科一藝すべて世用を益し名名數に補ある者は彼遂に煙滅して聞ゆるなきに至らんを恐れて此編を出せりと見ゆ、今回發行の前編には彼重に經學文章に名ある者都合四十九名の傳記を載せたり、中には儒者最も多く山崎闇齋等の名も見ゆ、又釋忍性、釋天室等の僧侶の名もあり、孰れも皆經學文章に長し各々一氣概を備ふるの士なるが如し、斯る事業は其藩の歴史を究明する上に於て大に便益を與へるなるべく又藩内子弟の教育の爲めにも尠からぬ用を爲すべし吾人は事實の眞偽を知るに由なしと雖も此點に於ては著者の効を多しとする所なり、獨り望む斯る事業の益々各藩に起りて史學上其余光を及ぼすに至らんことを

◎關西の青年批評

由來土陽の地、魁奇傑の士に富む憾むらくは之を傳ふの正史なく其事蹟往々煙滅して世に顯れざるもの多し著者之を概して今此書を著はす、記する處簡なりと雖も能く其要を得、又た好著たるを失はざるなり

◎土陽新聞批評

土佐の地北翠嶺を負ひ南青洋に臨み秀氣清淑にして過去三百年間偉人傑士の輩出せし者亦尠なしとせま然れ共文獻欠陥し正史の以て傳ふべきもの無く祖先鴻業偉跡も今は煙没し去て識る者稀也是れ豈に本縣の爲悲むべくして亦好古諸氏の遺憾とする所に非ずや本書は土佐遺聞録の著者寺石正路氏の著はす所にして紙數百頁余古來偉人傑士記

◎高知日報批評

を輯るもの四十九人考証該博にして文字亦た簡潔なり以て祖先の偉業を知るべく以て我土歴史の好材料と爲すべし

寺石氏が史に詳しきは夙江湖の認むる所殊に其の精力を土佐の史に盡す所の勢洵に以て多しとするに足るものあり這回本書を公にするに當り氏は其の自序に於て慷慨一番して曰く「嗚呼土佐國豈に何ぞ人物なからんや唯從來之を著す文章なきを恨むのみ」と以て氏が意氣を察すべきなり而して「一國の人物傳奇は一人の傳奇を草するに異に勢ひ仔細に其詳細を述ぶる能はず其各個の文章粗大簡畧に過ぐる者やあるは已むを得ざる」所なれば本書記する所の簡に過ぎ疎に失するを以て其の体裁を議するものあるは寧酷なるべし本書考證の説博にし記述の暢明なるは疑ふべからず若夫れ予輩が精細の批判評論は之を後に全完論了の際に期し茲には唯本書が古來土陽の人物を識らんとすべし續編には校正に一層嚴密なる注意をなすを忘るゝなからん事を望む

神奈川丸事務長坂本喜久吉君著

日本叢書 第貳編 歐洲再航錄

小形赤本全壹冊 正價金拾五錢 市外郵稅四錢

題して歐洲再航錄と謂ふ是れ日本叢書第壹編 雲海紀行の續編なり本書か海事思想啓發の上に於て如何に裨益する處あるか請ふ發行の日を待て知れ此段青年諸君に急告す

71
329

陸軍中將谷干城君題字
佐々木甲象君著述

泉州

烈舉實記

土居盛義翁肖像
右六月中に發行す

寺石正路君著

食人風俗考

菊判 全壹冊
正價 金廿六錢
郵税 六錢

洋綴 全一冊
正價 金三十錢

